

共通教育

「学生による授業評価」ならびに
「教員のFD活動レポート」

報告書

平成18年度(後学期)



平成19年9月

宮崎大学

**平成 18 年度（後学期）
共通教育「学生による授業評価」ならびに
「教員のFD活動レポート」報告書の刊行にあたって**

本学の共通教育部には共通教育の点検・評価とそれに基づく共通教育の改善を審議・改善することを任務とする共通教育部自己点検・評価委員会が設けられています。本委員会は、具体的活動の一つとして毎学期末に「学生による授業評価アンケート」と「教員のFD活動レポート」を実施して取り纏め、報告書を刊行してきました。これまで作成した報告書は平成16年前・後学期、平成17年前・後学期、平成18年度前学期分の計5冊です。本報告書はこれらに続くもので、通算すると6冊目となります。

本報告書の「学生による授業評価アンケート」や「教員のFD活動レポート」における質問項目や取り纏めの方法は、これまでの報告書の場合とほぼ同じで、年次・学期間の動向の比較が可能で、本報告書においても各所で実行され、動向の分析に利用されています。

「学生による授業評価アンケート」の回収率及び「教員のFD活動レポート」の提出率をみると平成18年度前期とほぼ同じですが、平成17年度前・後期に比べると概ね向上しており、授業担当教員の意識が高まっていることが窺われます。

本報告書及びこれまでの5冊の報告書は、宮崎大学の共通教育の現状の把握や今後の課題の検討のための基礎資料となるものです。周知のように、共通教育は本学の学士教育において重要な地位を占めています。授業担当教員だけでなく、できるだけ多くの教職員の方々に本報告書に目を通して頂き、共通教育に対する理解及びその充実・発展のために役立てて頂ければ幸いです。

最後に、ご多忙中、今回も「学生による授業評価アンケート」および「教員のFD活動レポート」にご協力頂いた授業担当教員各位に深く御礼申し上げます。

平成19年9月

共通教育部自己点検・評価委員会

委員長 甲斐 重貴

目 次

第1章 実施の記録・調査票・結果報告書・FD活動レポート	1
第2章 評価結果の分析	5
【1】全科目の平均について	5
【1-1】全科目平均の動向	6
【2】科目群ごとの分析	8
【2-1】科目群ごとの平均、および全体との比較	8
【2-2】前年同学期との比較	10
【2-3】科目単位でみた分布	13
第3章 教員によるFD活動レポート	22
【1】学生による評価と教員の自己評価の比較	22
【2】FD活動質問項目Bの集計と自由記入欄の回答内容	25
大学教育基礎科目	
【2-1】英語	26
【2-2】コミュニケーション英語	29
【2-3】初修外国語	31
【2-4】健康スポーツ科学	33
主題教養科目	
【2-5】現代の社会と倫理	35
【2-6】人間と文化	35
【2-7】現代社会の課題	37
【2-8】自然と生命	38
選択教養科目等	
【2-9】文化・社会系	39
【2-10】科学・技術系	41
【2-11】生命科学系	42
【2-12】複合・学際系	42
【2-13】生涯学習系	43
【2-14】外国語系	44
【2-15】日本語・日本事情	44
第4章 科目ごとのデータ一覧	45
第5章 本調査の今後の課題	55
「共通教育部自己点検・評価委員会」委員名簿	58

第1章 実施の記録・調査票・結果報告書・FD活動レポート

平成18年度後学期の共通教育科目に関する「学生による授業評価」及び「教員のFD活動レポート」は次のように実施された。

実施時期	平成19年(2007年)1月9日(火)～1月26日(金)の授業期間中。
対象科目	すべての共通教育科目(196科目)。
実施方法	実務は学務部教務課と大学教育研究企画センターが担当し、各科目の登録学生数に応じた枚数の調査票をあらかじめ用意し各教員に配布した。各教員は授業時間内に学生に調査票を配布して調査を実施し、ただちに回収した。その後、大学教育研究企画センターが集計作業を行った。
回収率	96%(196科目中、188科目を回収した。)
返却	各教員には調査票の現物とともに「結果報告書」を返却した。
FD活動レポート	FD活動レポートは、前回同様常勤教員は原則Web入力による提出とした。非常勤教員に関しては従来通りに所定用紙を配布し、記入の後、学生用調査票とともに提出して貰った。その後、「学生による授業評価」アンケートと同様に大学教育研究企画センターが集計作業を行った。 提出率は83%(196科目中、163科目分のFD活動レポートが提出された。)
報告	すべての科目の集計結果(生データ)は共通教育部自己点検・評価委員会に報告され、報告書は当該報告に基づき同委員会報告書作成WGが作成した。更に、報告書は同委員会に上程され、最終的に了承された。

※調査票・結果報告書・FD活動レポートの現物を次ページ以降に掲載した。なお、実際には、「科目コード」「授業科目」「担当教員」の〇〇の部分には各教員名及び授業名等のデータがあらかじめ記入されている。

「学生による授業評価」調査票(共通教育)

共通教育部自己点検・評価委員会

記入にあたっては、真剣に、かつ、率直な評価をしてください。この調査を教員の授業改善につなげ、共通教育の充実を図ります。なお、この調査とあなたの成績とは一切関係ありません。

科目コード: ○○○○○ 授業科目: ○○○○○ 担当教員: ○○○○○

達成目標: ○○○○○することを通して○○○○○できるようにする。

I. 質問項目:

A: 受講・勉学態度等に関して

- 1 私(回答者自身)は75%以上授業に出席した。
- 2 私(回答者自身)は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ。
予習や復習/重要事項の書き留め/課題の提出/授業内・外での教師への質問(オフィスアワーの活用)、等
- 3 私はこの科目の「達成目標」に到達した。

B: 担当教員の教授技法や授業内容等に関して

- 4 授業はシラバスに沿って行われた。
- 5 授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。
- 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。
- 7 重要ポイントが明らかで、説明も分かり易かった。
- 8 学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。
- 9 授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。

C: その他

- 10 クラスサイズ(受講生数)は適切だった。
- 11 学習環境は適切だった。
教室の照明/空調/机・椅子などの備品の状態、等

D: 総合的な授業評価

- 12 この授業は満足できるものだった。

II. 回答欄:

所属等: 学籍番号のはじめの4ケタを記入してください。

次の4段階評価に従って、最も適切な数字(④~①)を選んで、該当する丸数字を黒く塗りつぶしてください。

④:あてはまる ③:ややあてはまる ②:あまりあてはまらない ①:あてはまらない

		マーク欄				自由記述欄(左の項目に関連した意見や感想)
A	1	④	③	②	①	<div style="border: 1px solid black; height: 100%; width: 100%;"></div>
	2	④	③	②	①	
	3	④	③	②	①	
B	4	④	③	②	①	
	5	④	③	②	①	
	6	④	③	②	①	
	7	④	③	②	①	
	8	④	③	②	①	
C	9	④	③	②	①	
	10	④	③	②	①	
D	11	④	③	②	①	
	12	④	③	②	①	

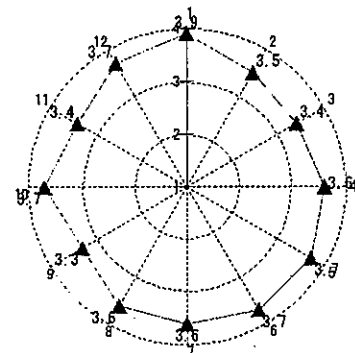
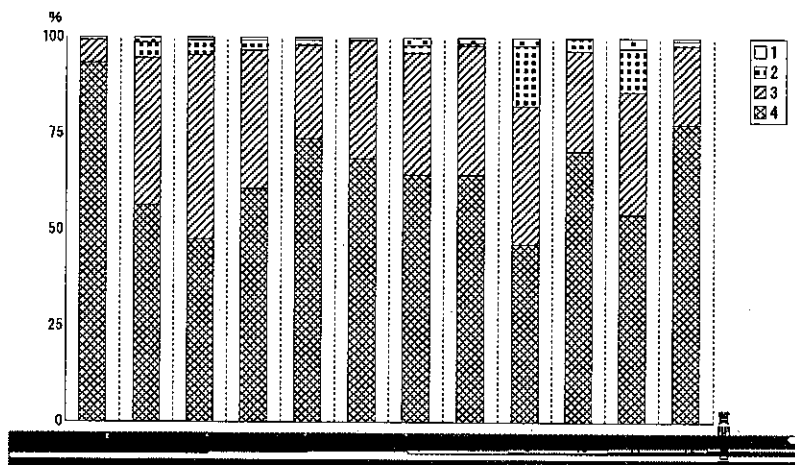
III. その他、この授業について、よかったこと、改善を求めたいこと、等の意見や感想を自由に述べてください。

「学生による授業評価」の結果報告書

科目コード	○○○○○	科目区分	共通教育		
授業科目	○○○○○				
担当教員	○○○○○	実施時期	平成18年度 後学期	回答者数	150

I. 集計結果

No.	質 問 項 目	4	3	2	1	合 計
1	私(回答者自身)は75%以上授業に出席した。	139	9		1	149
2	私(回答者自身)は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ。	85	58	6	2	151
3	私はこの科目の「達成目標」に到達した。	71	72	6	1	150
4	授業はシラバスに沿って行われた。	91	54	4	1	150
5	授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。	109	36	2	1	148
6	話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。	102	46		1	149
7	重要ポイントが明らかで、説明も分かり易かった。	97	48	3	3	151
8	学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。	95	50	1	2	148
9	授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。	68	53	23	3	147
10	クラスサイズ(受講生数)は適切だった。	105	39	5		149
11	学習環境は適切だった。	81	48	17	4	150
12	この授業は満足できるものだった。	113	30	2	1	146
		1156	543	69	20	1788



II. 受講生の授業評価を受けて、分かったこと、感想、改善すべきことなど
回答用紙で確認ください。

「共通教育担当教員FD活動レポート」

共通教育部自己点検・評価委員会

この調査は教員の授業改善につなげ、共通教育の充実を図ることを目的としています。記入にあたっては、各授業科目毎に率直に自分の授業を点検してください。

科目コード: ○○○○○

授業科目: ○○○○○

担当教員: ○○○○○

I. 質問項目:

回答者名: ()

A: 授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検してください。

- 1 シラバスに沿って授業を行えた。
- 2 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。
- 3 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。
教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。
- 4 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。
- 5 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。
- 6 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。
- 7 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。
- 8 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

B: FD活動についてお尋ねします。

- 9 この授業科目に関してこの1年間取り組んだFD活動を選んでください。（複数回答可）
①他教員の授業参観 ②学内外のFD講演会等への参加 ③他大学のFD活動の視察 ④その他
- 10 今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。（複数回答可）
①他教員の授業参観 ②学内外のFD講演会等への参加 ③他大学のFD活動の視察 ④その他

II. 回答欄:

1～8について: 次の4段階評価に従って、最も適切な数字(④～①)を選んで、該当する丸数字を黒く塗りつぶしてください。

④:あてはまる ③:ややあてはまる ②:あまりあてはまらない ①:あてはまらない

9～10について: 質問に対応する適切な数字を選んで、該当する丸数字を黒く塗りつぶしてください。

		マーク欄				自由記述欄(左の項目に関連した意見や感想)
A	1	④	③	②	①	
	2	④	③	②	①	
	3	④	③	②	①	
	4	④	③	②	①	
	5	④	③	②	①	
	6	④	③	②	①	
	7	④	③	②	①	
	8	④	③	②	①	
B	9	①	②	③	④	④の場合具体的に:
	10	①	②	③	④	④の場合具体的に:

III. 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

第2章 評価結果の分析

【1】全科目の平均について

すべての共通教育科目（全 196 科目のうち回収された 183 科目）について、質問項目ごとに評価点の平均を計算すると次の通りである（小数第 2 位以下は四捨五入）。

質問項目	学生自身			教員の教え方など						学習環境		総合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
全科目の平均	3.9	3.4	3.1	3.5	3.4	3.4	3.3	3.3	3.1	3.6	3.5	3.4

評価は「4：あてはまる。3：ややあてはまる。2：あまりあてはまらない。1：あてはまらない。」の 4 段階で行われている。

上の表をグラフにすると右の通りである。横軸は質問項目を、縦軸は評価点の平均を示している。

質問は以下の 12 項目である。

A：回答者（学生）自身について

- 1 私は 75% 以上授業に出席した。
- 2 私は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ。
- 3 私はこの科目の「達成目標」に到達した。

B：担当教員の教え方について

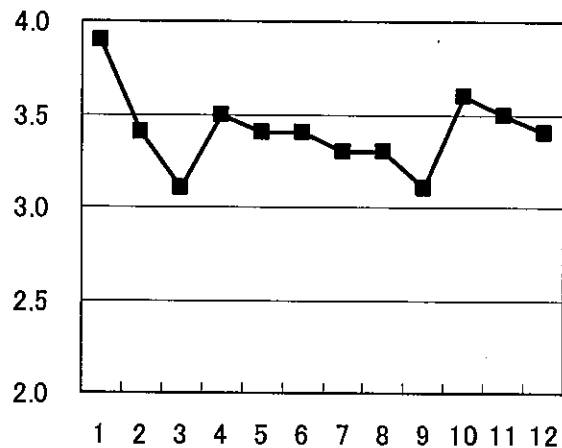
- 4 授業はシラバスに沿って行われた。
- 5 授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。
- 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。
- 7 重要ポイントが明らかで、説明も分かり易かった。
- 8 学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。
- 9 授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。

C：その他

- 10 クラスサイズ（受講生数）は適切だった。
- 11 学習環境は適切だった。

D：総合的な授業評価

- 12 この授業は満足できるものだった。



（※縦軸の評価 2 未満の目盛は割愛した。）

【1-1】全科目平均の動向

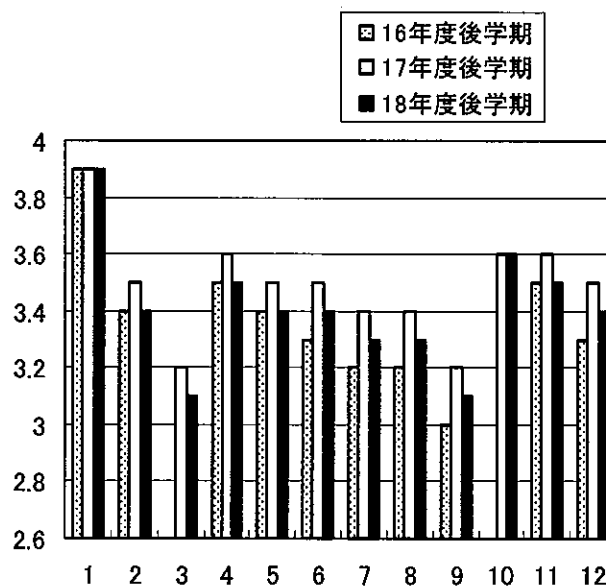
16年度からの各学期において、これまで、すべての科目を対象に学生による授業評価が実施されている。そこで、この3年の間にどれほどの改善がなされたかをみるために、評価点の平均の動向を整理したものが下の図表である（注：16年度は質問3と質問10は設けていなかったもので、下表では空欄にしてあるとともに、下図ではデータ無しとなっている）。

質問項目	学生自身			教員の教え方など						学習環境		総合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
16年度前学期	3.9	3.4		3.5	3.2	3.2	3.1	3.1	2.9		3.4	3.2
16年度後学期	3.9	3.4		3.5	3.4	3.3	3.2	3.2	3.0		3.5	3.3
17年度前学期	3.9	3.4	3.0	3.5	3.3	3.3	3.2	3.1	3.0	3.5	3.5	3.3
17年度後学期	3.9	3.5	3.2	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.2	3.6	3.6	3.5
18年度前学期	3.9	3.5	3.1	3.5	3.3	3.3	3.2	3.2	3.0	3.6	3.5	3.3
18年度後学期	3.9	3.4	3.1	3.5	3.4	3.4	3.3	3.3	3.1	3.6	3.5	3.4

○同学期との比較

17年度後学期と今回の結果を比較すると、評価が上がった項目は無く、12項目中10項目において、学生の評価が0.1ポイント下がっている。特に、「教員の教え方」の全6項目、及び「総合満足度」（質問12）がいずれも下がっていることは注目される（なお、本報告書における評価点はすべて、小数第二位以下は四捨五入していることに留意されたい）。

同学期どうしで比較した場合（かつ小数第一位まででみた場合）、一昨年から昨年にかけては、質問1（学生自身の出席状況）を除く全ての項目において評価が0.1～0.2ポイント上がった。しかしながら、今回は一転して、前年と比べて殆どの項目において、0.1ポイントではあるが下がっている。



同学期どうしであっても担当科目や教員に若干の違いがあり、受講する学生も異なる。また、評価が下がった項目にしても、いずれも0.1ポイントの変化（低下）である。従って、今回の結果をもって「学生の評価が明らかに下がった」あるいは「後退した」と安易に判断することはできない。

しかし、いずれにせよ今回の結果は、全体平均でみた場合、前年同学期と比べて向上できていない、あるいは課題が改善されていないことを示唆しているといえよう。

○3年間における動向

法人化直後の16年度前学期と今回（18年度後学期）の結果を比較すると、下がった項目は無く、10項目中7項目において、各々0.1ポイント上がっている。また、16年後学期と比較しても、やはり下がった項目は無く、10項目中5項目において0.1ポイント上がっている。このことは、3年という期間で見れば、共通教育に対する学生の評価が多少とも上がってきていることを示している。

しかし、同時にいえることは、ほぼ全ての項目において、特にここ1～2年、ドラステイックな変化（伸び）が無く、殆どが0.1～0.2ポイント以内の変化にとどまっていることである。

特に「教員の教え方」や「総合満足度」に着目すると、質問9（「予習・復習や発展学習を課した」）を除けば、今回、3.3～3.5の評点を達成している。ただ、前回や前々回の調査に対する変化は小幅である（上昇、下降いずれにせよ）。このことに関しては、「これで妥当（「上位安定」）」とみるべきか、あるいは「まだ不十分（改善の余地あり）」とみるべきか、評価が分かれるところであろうが、事実は事実として記しておくこととする。

他方、質問9の評点は、16年度前学期より0.2ポイント上がってはいるものの、質問項目のなかで一番低い3.1にとどまっている。これまでの報告書でも繰り返し述べたが、自学自習促進のための指導に関しては、科目ごとの必要性の有無や具体的方法と併せて検討すべきと思われる。

なお、学期間でみた場合、後学期に比べて前学期の評価が低い傾向にあることはこれまでの報告書で述べたところである。18年度は、17年度ほどは明確ではないが、「教員の教え方」や「総合満足度」を示すもののうち5項目において前学期が0.1ポイント下回る結果となり、これまでと類似した結果となった。やはり、授業科目（の性質）や担当教員の違いが影響しているものと思われるが、今後も引き続き検証していく必要がある。

法人化直後と比べると、学生の評価は上がってきている。

全体平均で見れば、「教員の教え方」や「総合満足度」において、今回、3.3～3.5の評点を達成している。但し、前年同学期と比較すると、殆どの項目において、0.1ポイント低下している。

以上の点を踏まえ、今後さらに検討を進めていく必要がある。

【2】科目群ごとの分析

【2-1】科目群ごとの平均、および全体との比較

共通教育科目を15の科目群に分類した場合の評価点の平均は次の通りである。かつこの科目数は開講科目数ではなく、授業評価が提出された科目数である。

太字の値は「全科目平均」と比べて0.2ポイント以上高いことを、網掛けの値は「全科目平均」と比べて0.2ポイント以上低いことを示している（±0.1ポイント以内は、そのままにしてある）。

なお、「初修外国語」は、通年における評価である（前期のみの授業評価は実施していない）。

科目群ごとに全科目平均と比較すると次頁の通りであるが、ここで挙げる特徴（傾向）が前年同学期の結果と類似していることは注目される（17年度後学期の報告書を改めて参照されたい）。

質問項目		学生自身			教員の教え方など						学習環境		総合
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
全科目平均		3.9	3.4	3.1	3.5	3.4	3.4	3.3	3.3	3.1	3.6	3.5	3.4
大学 教育 基礎 科目	(1)英語(27科目)	3.9	3.3	3.1	3.5	3.4	3.4	3.3	3.2	3.3	3.6	3.6	3.3
	(2)コミュニケーション英語(28科目)	3.9	3.4	3.0	3.6	3.5	3.4	3.3	3.3	3.3	3.7	3.6	3.4
	(3)初修外国語(30科目)	3.9	3.3	2.9	3.5	3.3	3.3	3.2	3.1	3.2	3.5	3.5	3.3
	(4)保健体育科目(25科目)	3.9	3.7	3.5	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.1	3.6	3.6	3.6
主題 教養 科目	(5)現代の社会と倫理(8科目)	3.9	3.3	3.1	3.5	3.2	3.1	3.0	3.0	2.9	3.4	3.5	3.1
	(6)人間と文化(11科目)	3.8	3.4	3.2	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	3.0	3.4	3.5	3.4
	(7)現代社会の課題(7科目)	3.7	3.2	3.0	3.4	3.3	3.3	3.2	3.1	2.7	3.4	3.5	3.2
	(8)自然と生命(9科目)	3.8	3.2	2.9	3.4	2.8	3.0	2.8	2.8	2.6	3.3	3.4	2.9
選択 教養 科目	(9)文化・社会系(10科目)	3.8	3.4	3.2	3.6	3.5	3.4	3.3	3.3	2.9	3.5	3.5	3.4
	(10)科学・技術系(8科目)	3.8	3.4	3.1	3.5	3.4	3.4	3.3	3.2	2.8	3.4	3.5	3.4
	(11)生命科学系(3科目)	3.9	3.4	3.1	3.5	3.2	3.1	3.1	3.1	2.6	3.4	3.3	3.3
	(12)複合・学際系(4科目)	3.8	3.4	3.2	3.6	3.7	3.6	3.5	3.4	2.9	3.6	3.6	3.5
	(13)生涯学習系(4科目)	3.9	3.7	3.5	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.3	3.7	3.7	3.8
	(14)外国語系(6科目)	3.9	3.7	3.3	3.8	3.6	3.7	3.5	3.7	3.5	3.8	3.8	3.8
(15)日本語・日本事情(3科目)		3.8	3.8	3.5	3.9	4.0	4.0	3.8	3.8	3.9	3.9	3.9	3.8

1) 大学教育基礎科目

- ・ 「英語」及び「コミュニケーション英語」は、平均で見れば、全科目平均とほぼ同程度の評価である。但し両科目ともに、質問9（自学自習の促進）は全科目平均より0.2ポイント高い。
- ・ 「初修外国語」も、全科目平均と概ね同程度の評価であるが、質問3（学生の到達度）と質問8（意欲や好奇心を満足させる教え方）は、全科目平均より0.2ポイント低い。
- ・ 「保健体育科目」は、全体を通して高い評価を受けている。

2) 主題教養科目

- ・ 「現代の社会と倫理」は、「教員の教え方」や「総合満足度」（質問12）等の7項目において、全科目平均より0.2～0.3ポイント低い。
- ・ 「人間と文化」は、質問10（クラスサイズ）を除いて、全科目平均とほぼ同程度の評価である。
- ・ 「現代社会の課題」は、質問7～10や質問12等の6項目において、全科目平均より0.2ポイント（以上）低い。
- ・ 「自然と生命」は、12項目のうち9項目において、全科目平均より0.2ポイント以上低い。特に「教員の教え方」や「総合満足度」の中の5項目において0.5～0.6ポイントも低くなっている。

3) 選択教養科目、日本語科目

- ・ 「文化・社会系」と「科学・技術系」は、質問9等を除いて、全科目平均とほぼ同程度の評価である。
- ・ 「生命科学系」は、「教員の教え方」や「学習環境」の7項目において、全科目平均より0.2ポイント（以上）低い。
- ・ 「複合・学際系」は、質問9は全科目平均より0.2ポイント低いものの、「教員の教え方」のうちの質問5～7では0.2～0.3ポイント高くなっている。
- ・ 「生涯学習系」と「外国語系」は、質問1（学生の出席状況）を除くほぼ全ての項目で、全科目平均より0.2ポイント以上の高い評価を受けている。
- ・ 「日本語・日本事情」は、質問1を除くほぼ全ての項目で全科目平均より0.2ポイント以上の高い評価を受けている（但し、受講生が1～4名という限定されたなかでの評価である）。

平均で見れば、「保健体育科目」、「生涯学習系」、「外国語系」、「日本語・日本事情」は、全体より高い評価の項目が多く、他方「現代の社会と倫理」、「現代社会の課題」、「自然と生命」、「生命科学系」は低い評価の項目が多くなっている。

上記以外の科目は、全科目平均と概ね同程度の評価である。

そして以上の特徴が、前年同学期と類似していることは注目される。

【2-2】前年同学期との比較

次に、科目群ごとに前年（平成17年度）後学期と比較する。下表において、評価が0.2ポイント以上、上がった項目には★を、0.1ポイント上がった項目には☆を付けている。他方、評価が0.2ポイント以上、下がった項目には▼を、0.1ポイント下がった項目には▽を付けている。（これまでの報告書と符号の意味が異なる（ポイント数に差をつけている）ので留意されたい。）

なお、同学期どうしであっても各群ともに開講科目とその数に若干の増減があり、必ずしも厳密な比較になり得ないことは申し添えておきたい。

①大学教育基礎科目

質問項目		学生自身			教員の教え方など						学習環境		総合	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
大学 教育 基礎 科目	(1) 英語	17後	3.9	3.5	3.1	3.6	3.5	3.5	3.4	3.3	3.3	3.7	3.6	3.5
		18後	3.9	▼		▽	▽	▽	▽	▽		▽		▽
	(2) コミュニケーション英語	17後	3.9	3.3	3.1	3.5	3.4	3.4	3.3	3.2	3.3	3.6	3.6	3.3
		18後	3.9	3.5	3.0	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.7	3.6	3.5
	(3) 初修外国語	17後	3.9	▽		▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽
		18後	3.9	3.4	3.0	3.6	3.5	3.4	3.3	3.3	3.3	3.7	3.6	3.4
	(4) 保健体育科目	17後	3.9	3.4	3.0	3.6	3.4	3.3	3.3	3.2	3.3	3.6	3.6	3.4
		18後	3.9	3.3	2.9	3.5	3.3	3.3	3.2	3.1	3.2	3.5	3.5	3.3
(4) 保健体育科目	17後	4.0	3.8	3.6	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.1	3.7	3.6	3.8	
	18後	▽	▽	▽	▽	▼	▽	▽	▼	▽	▽	▽	▼	
		3.9	3.7	3.5	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.1	3.6	3.6	3.6	

大学教育基礎科目では、「教員の教え方」や「総合満足度」をはじめとして、全体的に前年同学期より評価が下がっており、上がった項目はみられない。具体的には、「英語」では8項目、「コミュニケーション英語」では5項目、「初修外国語」では10項目において下がっている。

但し、これら項目では、「英語」の質問2を除いた全てにおいて0.1ポイントの低下にとどまっていることから、前年同学期に概ね近い評価であるという見方もできよう。

なお、「初修外国語」は、既に述べたように今回は通年での評価であることから、上表は17年度後学期（半期）と18年度（通年）との比較であることは留意されたい（17年度は他の科目群と揃えるという意味で、本来は通年科目の初修外国語も前・後期毎にアンケートを取った）。

また、「保健体育科目」も10項目において前年より下がっており、うち4項目は0.2ポイント下がっている。この理由を軽々には判断できないが、ただ当科目群は、既に述べたように全科目平均と比べれば、依然として高い評価がなされている。

大学教育基礎科目は、「教員の教え方」や「総合満足度」を中心に、評価が0.1ポイント下がった項目が多い。

②主題教養科目

質問項目		学生自身			教員の教え方など						学習環境		総合	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
主題 教養 科目	(5)現代の社会と倫理	17後	3.9	3.4	3.1	3.7	3.3	3.4	3.3	3.3	2.9	3.4	3.4	3.4
		18後	3.9	▽		▼	▽	▼	▼	▼			☆	▼
	(6)人間と文化	17後	3.9	3.4	3.3	3.6	3.5	3.5	3.3	3.4	3.0	3.5	3.5	3.5
		18後	▽			▼	▽	▼		▽		▽		▽
	(7)現代社会の課題	17後	3.8	3.4	3.2	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	3.0	3.4	3.5	3.4
		18後	3.8	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	☆	▽
	(8)自然と生命	17後	3.7	3.2	3.0	3.4	3.3	3.3	3.2	3.1	2.7	3.4	3.5	3.2
		18後	3.9	3.3	2.9	3.3	3.0	3.1	2.9	2.9	2.7	3.3	3.3	2.9
		17後	▽	▽		☆	▼	▽	▽	▽	▽		☆	
		18後	3.8	3.2	2.9	3.4	2.8	3.0	2.8	2.8	2.6	3.3	3.4	2.9

主題教養科目では、学習環境（質問11）において4科目中3科目において上がっているが、やはり、「教員の教え方」や「総合満足度」を中心に、多くの項目において評価が下がっている。

「現代の社会と倫理」は、質問11で0.1ポイント上がっているものの、7項目において下がっており、うち「教員の教え方」や「総合満足度」のうちの5項目において0.2～0.3ポイント低下している。

「人間と文化」では、質問4と6で0.2ポイント下がっているほか、7項目において下がっている。

「現代社会の課題」では9項目において下がっているが、但し、これらは0.1ポイントの低下にとどまっている。

「自然と生命」では、質問4と質問11で0.1ポイント上がっているが、「教員の教え方」のうちの質問5～9等において0.1ポイント下がっている。

主題教養科目においても、「教員の教え方」や「総合満足度」を中心に、評価が下がった項目が多くなっている。

③選択教養科目、日本語科目

質問項目		学生自身			教員の教え方など						学習環境		総合	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
選択 教養 科目	(9)文化・社会系	17後	3.8	3.5	3.2	3.6	3.6	3.4	3.4	3.4	2.9	3.5	3.5	3.5
		18後	3.8	▽			▽		▽	▽				▽
	(10)科学・技術系	17後	3.8	3.4	3.2	3.6	3.5	3.4	3.3	3.3	2.9	3.5	3.5	3.4
		18後	3.8	★	☆	▽	☆	☆	☆	☆		▽	▼	
	(11)生命科学系	17後	3.8	3.5	3.1	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	2.4	3.1	3.5	3.6
		18後	☆	▽			▼	▼	▼	▼	★	★	▼	▼
	(12)複合・学際系	17後	3.9	3.4	3.2	3.7	3.6	3.6	3.5	3.4	2.8	3.6	3.6	3.5
		18後	▽			▽	☆				☆			
	(13)生涯学習系	17後	3.9	3.6	3.5	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.1	3.7	3.6	3.7
		18後		☆					☆		★		☆	☆
	(14)外国語系	17後	4.0	3.6	3.4	3.6	3.8	3.7	3.7	3.5	3.3	3.5	3.7	3.4
		18後	▽	☆	▽	★	▼		▼	★	★	★	☆	★
	(15)日本語・日本事情	17後	3.9	3.9	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
		18後	▽	▽	▼	▽			▼	▼	▽	▽	▽	▼

選択教養科目においては、科目群により変化に違いがみられる。

評価の上がった項目が多いのは、「科学・技術系」と「生涯学習系」である。特に、「生涯学習系」は、低下した項目が一つもない唯一の科目群である。

「生命科学系」は、3項目において上がっているものの、「教員の教え方」や「総合満足度」等の6項目で0.2～0.3ポイント下がっている。ただ、該当科目が3科目のみであることには留意されたい。

「科学・技術系」と「複合・学際系」は、若干の違いはあるが、全て0.1ポイント以内の増減にとどまっている。

「外国語系」は、評価の上がった項目（7項目）と下がった項目（4項目）が混在している。

なお、日本語科目である「日本語・日本事情」は、前年と比べれば殆どの項目で評価が下がっているが、全科目平均と比べれば、依然として高い評価がなされている。

選択教養科目は、科目群により違いがみられるが、「科学・技術系」と「生涯学習系」では「教員の教え方」等の評価が上がっている。

【2-3】科目単位でみた分布

平均でみた科目群ごとの特徴は以上の通りであるが、当然ながら、同一科目群の中でも科目により評価に違いがある。では、科目別にみた場合、評価点はどのような分布をしているのか。前回及び前々回の報告書と同様に、今回も科目単位での分布をみていくことにする。

下の表は、学生の「総合満足度」を示す質問 12 と各項目との相関係数（単相関）を計算したものである。「教員の教え方」に関する項目のうちの質問 4～8、すなわち授業の内容や教員の説明の仕方等に関する項目との相関が特に高く、これは 17 年度後学期及び 18 年度前学期における計算結果とほぼ同様となった。従って、「わかりやすさ」や「意欲・好奇心を掻き立てる教え方」を行うことが学生の「総合満足度」の向上につながるものが、今回の結果からも改めて示唆される（各質問項目の内容は 5 頁を参照）。

また、質問 2（学生の受講態度）や質問 3（学生の到達度）との相関も 0.75 前後と、比較的高い。さらに、表示していないが、質問 2 及び 3 と質問 4～8 の相関をみると、0.63 から 0.78 の値を示している。このことから、教員の教え方の良し悪しが学生の受講態度や学生自身の到達度（理解度）にも大きく影響し、ひいては学生の満足度にもつながっていることがうかがえる。

「総合満足度」(質問12)と各項目との相関係数(平成18年度後学期)

学生自身			教員の教え方など					
1	2	3	4	5	6	7	8	9
0.351	0.754	0.744	0.739	0.887	0.897	0.906	0.938	0.563
学習環境			複数項目の平均					
10	11	1-3平均	4-9平均	10-11平均	全項目平均			
0.466	0.605	0.773	0.935	0.572	0.942			

以下、これまでの報告書と同様に、「総合満足度」（質問 12）と「教員の教え方」の平均値（質問 4～9 の平均値）に着目して整理してみよう。

図 1～14 は、科目群ごとに、横軸に「教員の教え方」の平均値を、縦軸に「総合満足度」をとり、各科目の値をプロットしたものである。左欄の図（図 ○-a）が 18 年度後学期、右欄の図（図 ○-b）が 17 年度後学期である（但し、①両指標ともに同じ値である科目も存在し、これらは図示する際に点 [マーカー] が重なるため科目数とマーカーの数は必ずしも一致していないこと、②「初修外国語」の 18 年度は通年の評価であること、③図 8 の目盛の下限值が他図と異なることに留意。なお、「日本語・日本事情」の図は割愛）。

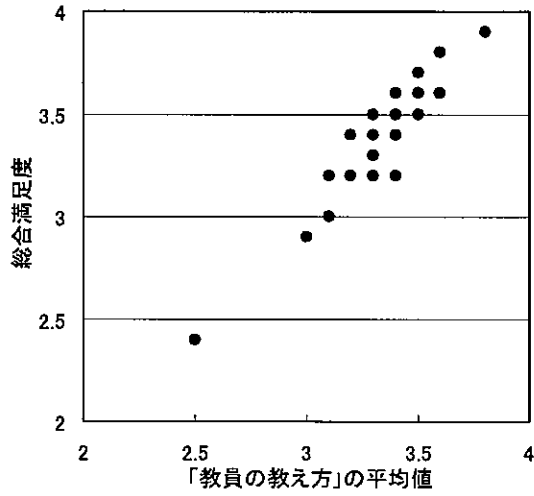


図1-a 英語(H18・後期)

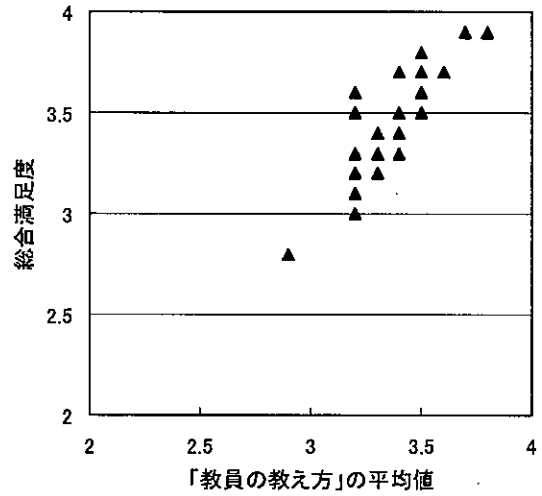


図1-b 英語(H17・後期)

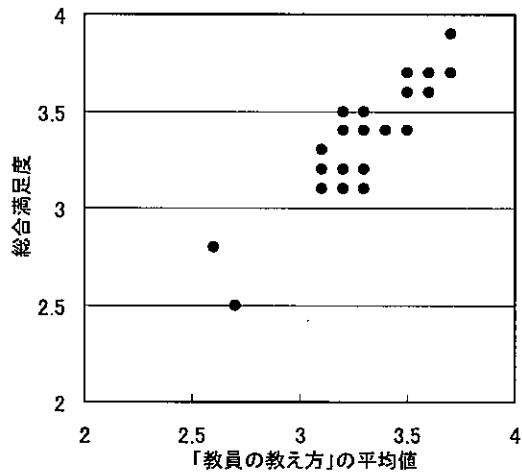


図2-a コミュニケーション英語(H18・後期)

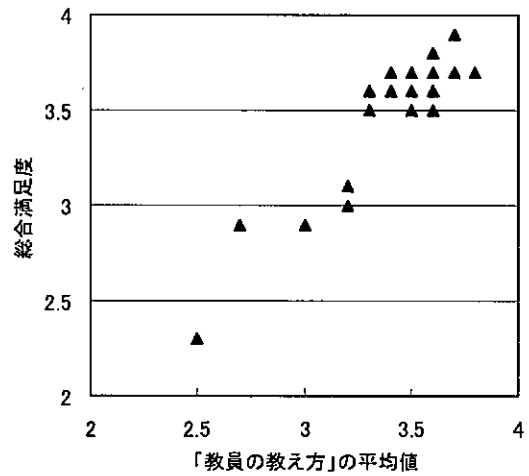


図2-b コミュニケーション英語(H17・後期)

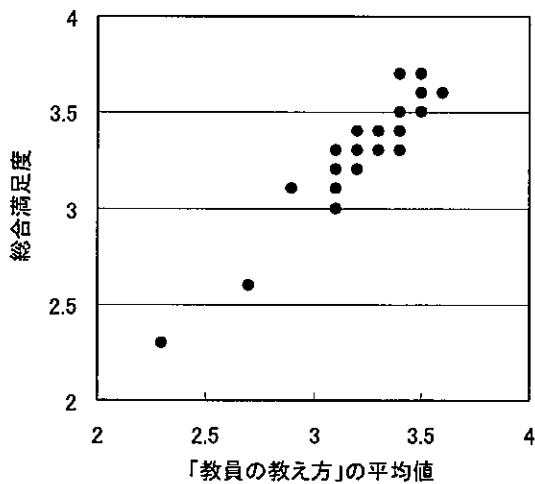


図3-a 初修外国語(H18・通年)

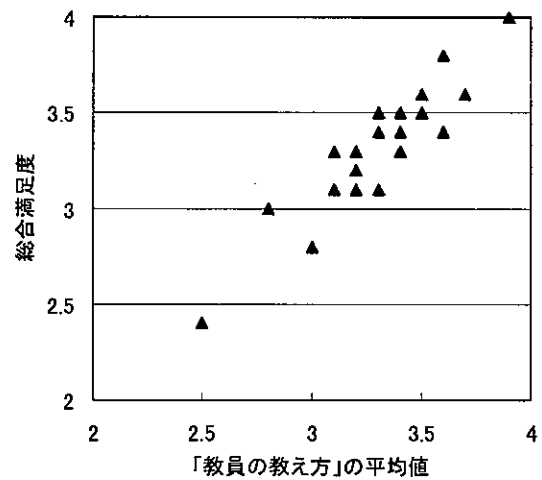


図3-b 初修外国語(H17・後期)

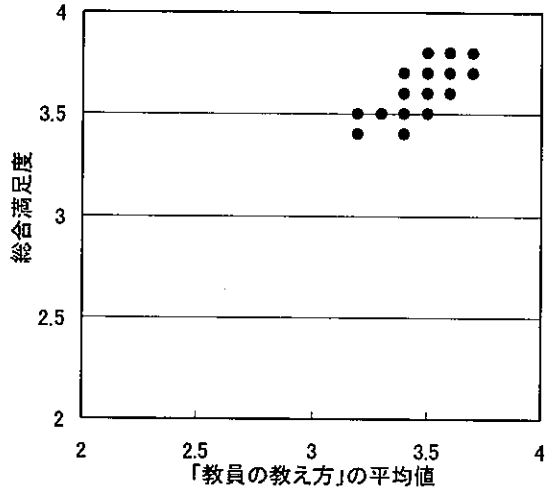


図4-a 保健体育科目(H18・後期)

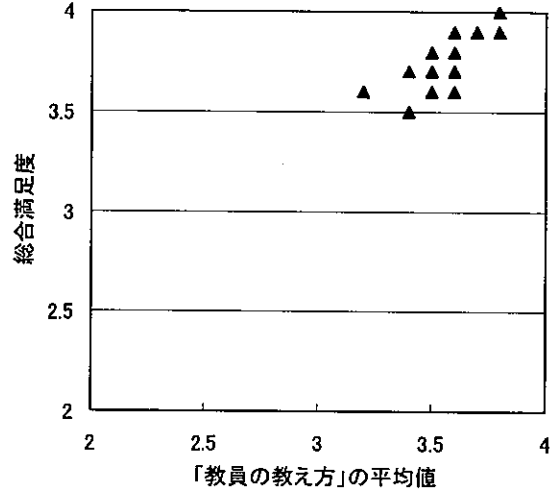


図4-b 保健体育科目(H17・後期)

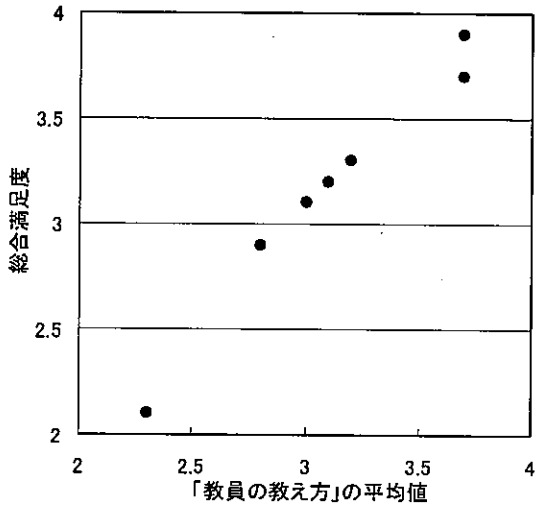


図5-a 現代の社会と倫理(H18・後期)

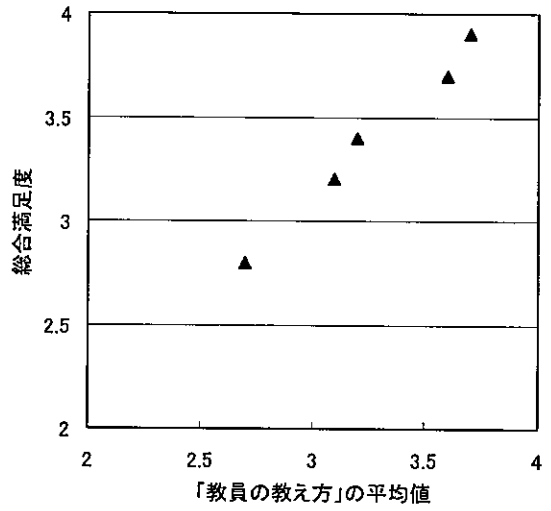


図5-b 現代の社会と倫理(H17・後期)

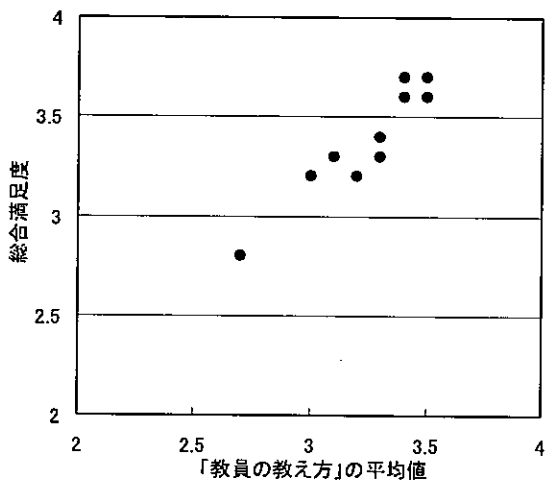


図6-a 人間と文化(H18・後期)

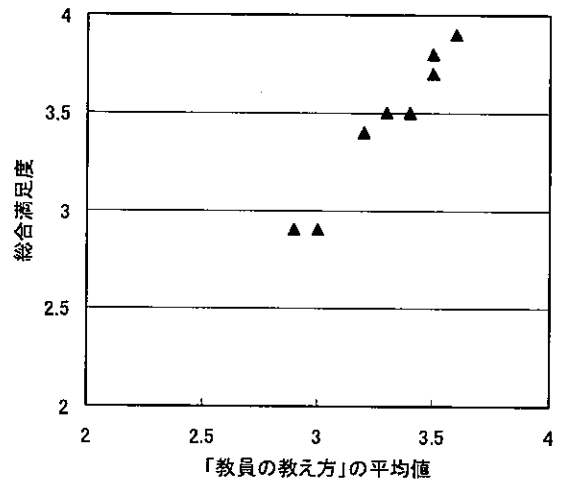


図6-b 人間と文化(H17・後期)

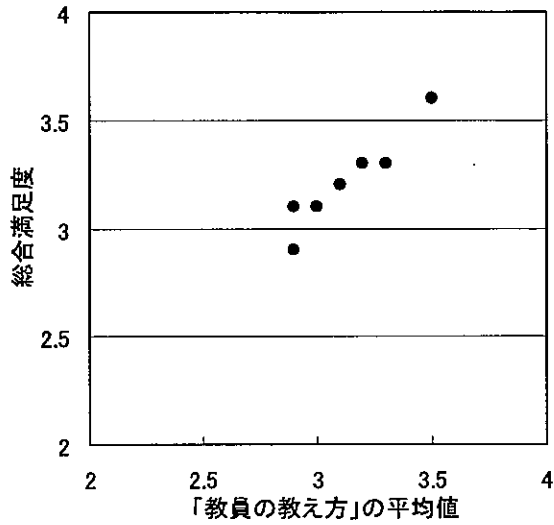


図7-a 現代社会の課題(H18・後期)

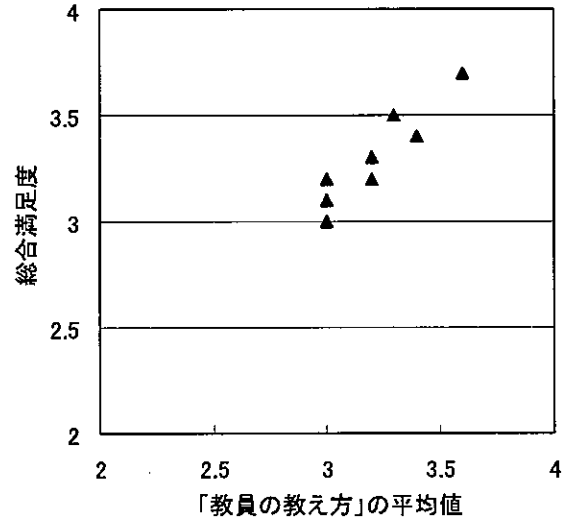


図7-b 現代社会の課題(H17・後期)

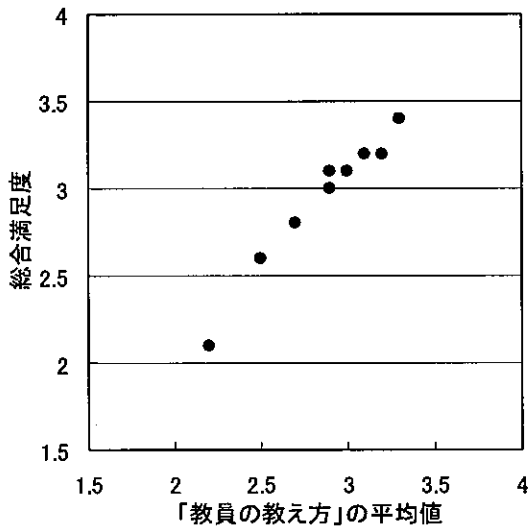


図8-a 自然と生命(H18・後期)

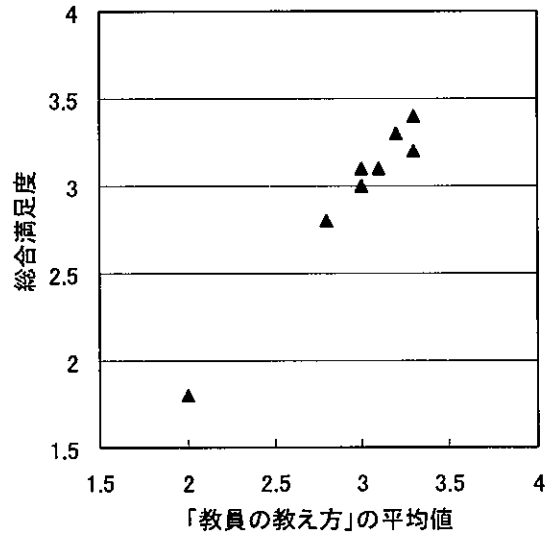


図8-b 自然と生命(H17・後期)

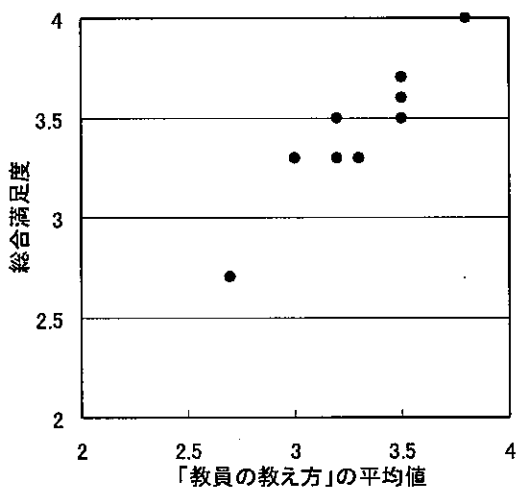


図9-a 文化・社会系(H18・後期)

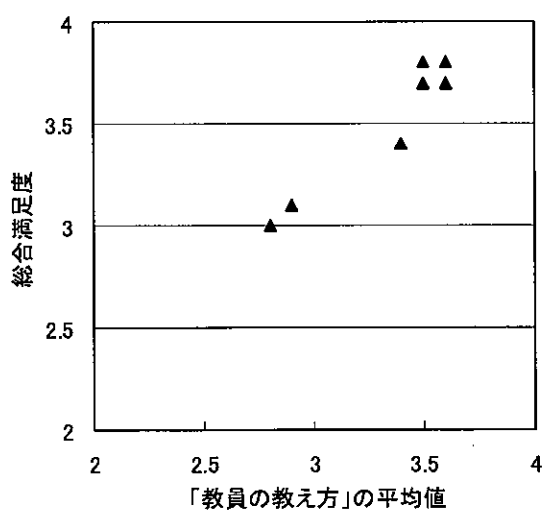


図9-b 文化・社会系(H17・後期)

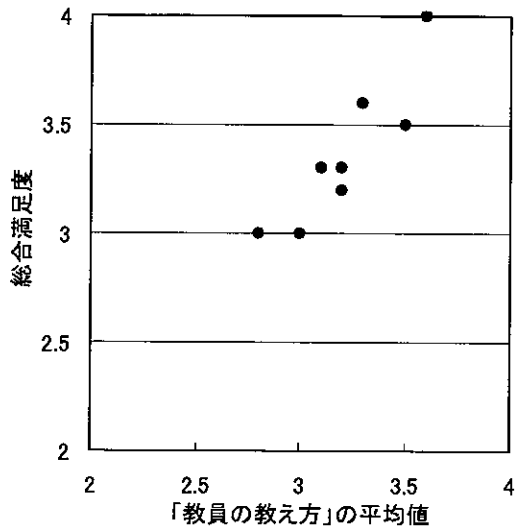


図10-a 科学・技術系(H18・後期)

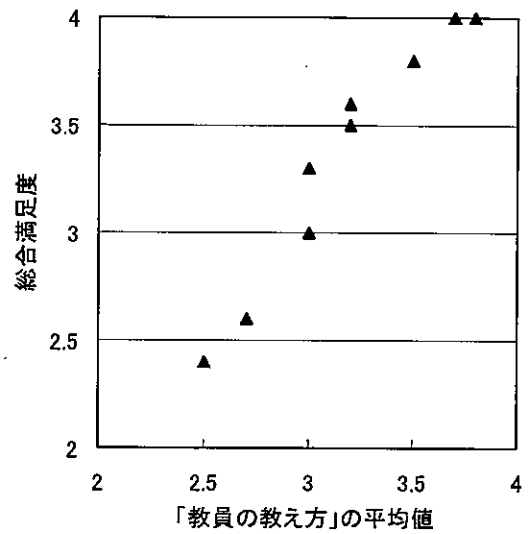


図10-b 科学・技術系(H17・後期)

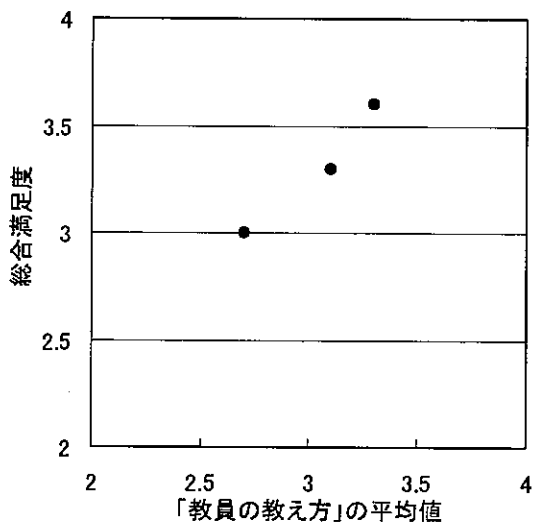


図11-a 生命科学系(H18・後期)

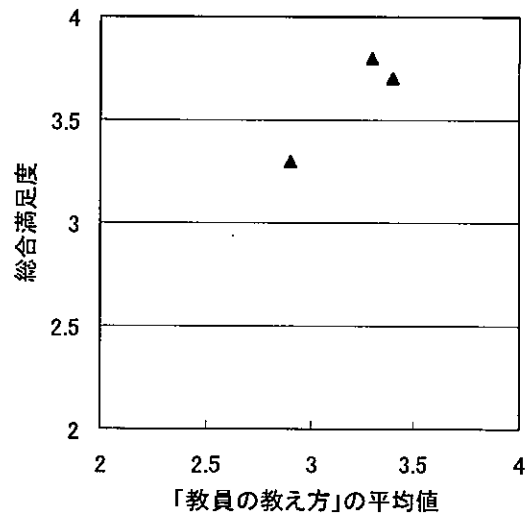


図11-b 生命科学系(H17・後期)

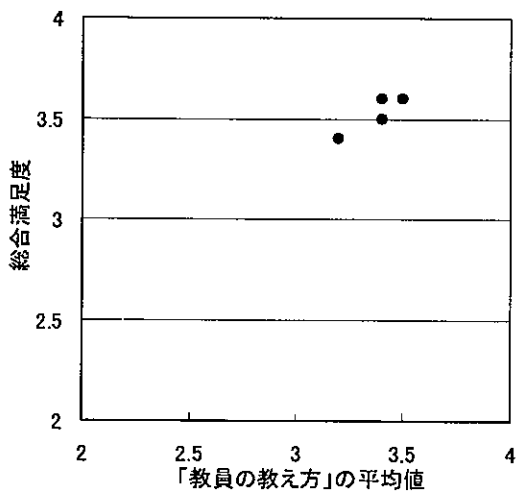


図12-a 複合・学際系(H18・後期)

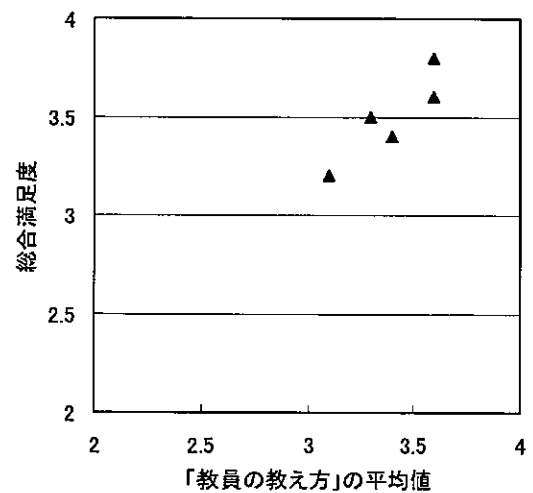


図12-b 複合・学際系(H17・後期)

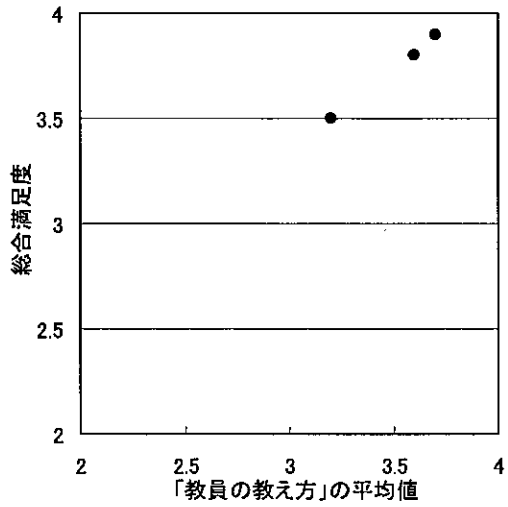


図13-a 生涯学習系(H18・後期)

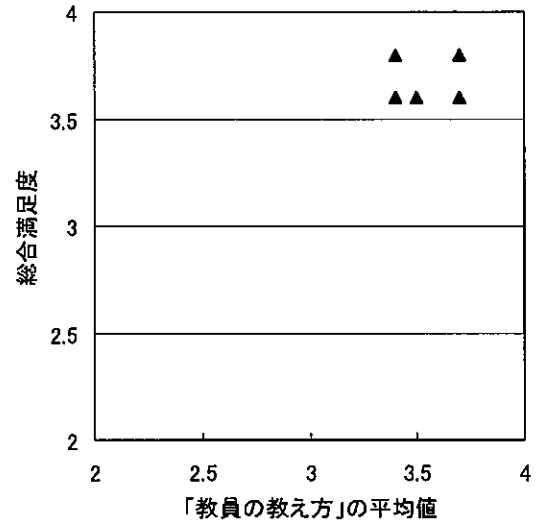


図13-b 生涯学習系(H17・後期)

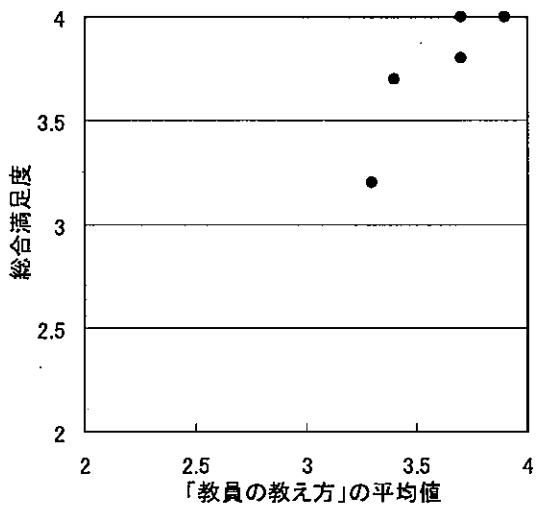


図14-a 外国語系(H18・後期)

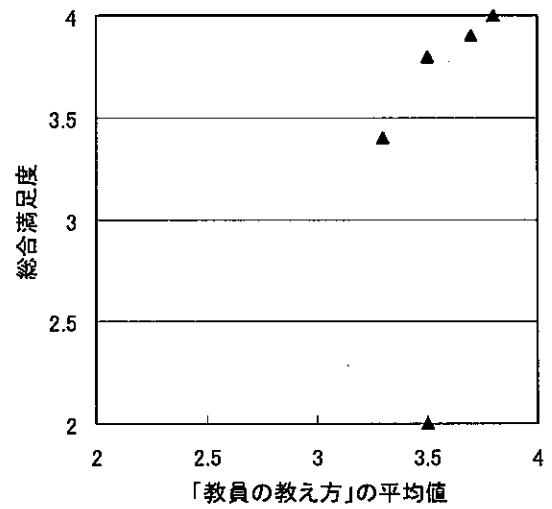


図14-b 外国語系(H17・後期)

科目群により含まれる科目数が異なるため、科目群ごとの厳密な比較はできないが、以下の特徴は指摘できよう（後掲の度数分布表も併せて参照されたい）。

①18年度後学期における分布

- ・ 科目数の違い等のため、群ごとのばらつきを厳密に比較することは難しい。但し、回答数が6科目以上の11の科目群についてみると、次の特徴がみられる。
- ・ すなわち、多くの科目群において、両指標ともに3.0をクリアしている科目が9割前後（あるいは9割以上）を占めている。具体的には、「英語」、「コミュニケーション英語」、「初修外国語」、「保健体育科目」、「人間と文化」、「現代社会の課題」、「文化・社会系」、「科学・技術系」、「外国語系」である。この意味においては科目間の「ばらつき」は小さいといえる。但し、群によっては、3.0に満たない科目が1～2科目ながら存在する。
- ・ 他方、両方または片方の指標が3.0に満たない科目が2割以上存在するのは、「現代の社会と倫理」と「自然と生命」である。これら2群においては、科目による評価の差が特に大きいのが特徴である。当該科目群の評点（平均値）が、多くの質問項目において全科目平均より0.2ポイント以上低いのは、このことが大きな理由といえよう。
- ・ 「複合・学際系」と「生涯学習系」は該当科目数が4科目のみであるが比較的评价が高く、全ての科目において「総合満足度」の平均値である3.4をクリアしている。
- ・ なお、「生命科学系」は該当科目数が3科目のみであるが、科目による評価の差が大きい。

②前年度（17年度）後学期との比較

- ・ 前々回の報告書では、ほぼすべての科目群において17年度後学期と16年度後学期が似通った分布傾向を示していることを指摘した。同時に、ほとんどの科目群において評価の平均値が上がっている証として、評価の高い科目が増加するパターンと、評価の低い科目が減少するパターンの2通りがあることも指摘した。
- ・ 今回、18年度後学期と17年度後学期との比較を行った結果、やはり似通った分布傾向を示していることが改めて確認された。すなわち、科目による評価の偏り具合（たとえば、右上方に偏っている、あるいはばらついている等）や、評価の高い科目とやや低い科目の存在状況といった科目群ごとの特徴が、3カ年を通して同様に認められることである。この点はまず強調しておきたい。
- ・ また既に述べたように、今回は一般に前年度より評価が下がっている。この理由を分布図や度数分布表から推察すると、評価が3.1から3.4の間に含まれる科目の割合が上昇し、他方、3.5以上（あるいは3.6以上）の割合が低下している。これは、全体的にみた場合、及び、該当科目数が多い科目群に主にみられる傾向である。実際には0.1ポイント程度の低下にとどまっているケースが多いものの、一つの特徴として注目される。

- ・ なお、上記以外の傾向として、前年度より評価の上がったケースでは、評価の低い科目が減少したパターンがみられる。これには「科学・技術系」が該当する。
- ・ 改めて述べると、3年間を通して観れば、学生の評価は上がってきており、これは教え方における教員自身の改善・工夫によるところが大きいと考えられる。但し、科目別にみた分布は3年間を通して類似した傾向にあること、いいかえれば、評価のやや低い科目は、数は多くはないものの依然として存在していることが、改めて確認された。
- ・ このことに関し、クリアすべき評価点の目安を「ややあてはまる」の評点である3.0に置かならば、学生の「総合満足度」がこの基準に満たない科目は、16年度後期は全166科目中28科目存在したのに対し、17年度後期は全187科目中15科目におよそ半減した。そして今回（18年度後期）は全183科目中16科目となっており、横ばいの状態である。
- ・ また、これまで概ね順調に評価が上昇してきた中であって、今回は、下げ幅は小さいものの、一般に前年度より評価がむしろ下がっている。しかし、平均でみれば3.3～3.5というまずまずの評点を達成しているのもまた事実である。
- ・ 以上の結果については、「これで（概ね）妥当」と観るべきか、あるいは「まだ不十分」と観るべきか、評価は分かれるであろう。また、両年度における担当教員の違いや回収された科目数の違い、受講する学生の違いや主観等があるため、評価の高低に一喜一憂すべきではないし、単純に「学生の評価」イコール「授業の評価」というわけでもない。
- ・ しかしながら、今回及びこれまでの分析結果はデータに基づく客観的な事実である。全体の「ボトムアップ」をより一層図るためにも、個々の担当教員が本報告書の結果を前向きに受け止め、これまで以上の教育方法の改善・工夫に向けて有効活用して貰えることを切に望みたい。

【学生による授業評価結果のまとめ】

- 3年間における動向をみると、共通教育へのFD活動は成果を挙げつつあるといえる。
- しかしながら、科目による評価の差は、依然として大きい。
- また、全体的にみれば、前年度同学期より、評価はむしろ下がっている。
- こうした点を踏まえ、より一層の教育改善に向けて取り組みを進めるとともに、教員各自が工夫をしていくことが望まれる。

「教員の教え方」(質問4～9)の平均値の度数分布(該当科目数と割合;平成18年度後学期)

「教員の教え方」の平均値	(上段:科目数, 下段:割合)																				計
	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	
全体		1 0.5	2 1.1		2 1.1	1 0.5	6 3.3	3 1.6	6 3.3	8 4.4	18 9.8	24 13.1	26 14.2	23 12.6	31 16.9	15 8.2	12 6.6	2 1.1	2 1.1	1 0.5	183 100.0
(1)英語					1					2 7.4	3 11.1	3 11.1	6 22.2	5 18.5	4 14.8	2 7.4		1 3.7			27 100.0
(2)コミュニケーション英語						1 3.6	1 3.6					3 10.7	5 17.9	5 17.9	1 3.6	5 17.9	4 14.3	3 10.7			28 100.0
(3)初修外国語(通年)			1 3.3				1		2 6.7		6 20.0	3 10.0	5 16.7	6 20.0	5 16.7	1 3.3					30 100.0
(4)保健体育科目												2 8.0	1 4.0	6 24.0	9 36.0	5 20.0	2 8.0				25 100.0
(5)現代の社会と倫理			1 12.5					2 25.0		1 12.5	1 12.5	1 12.5						2 25.0			8 100.0
(6)人間と文化							1 9.1			1 9.1	1 9.1	1 9.1	3 27.3	2 18.2	2 18.2						11 100.0
(7)現代社会の課題								2 28.6	1 14.3	1 14.3	1 14.3	1 14.3			1 14.3						7 100.0
(8)自然と生命		1 11.1			1 11.1		1 11.1		2 22.2	1 11.1	1 11.1	1 11.1	1 11.1								9 100.0
(9)文化・社会系							1 10.0			1 10.0		3 30.0	1 10.0		3 30.0			1 10.0			10 100.0
(10)科学・技術系								1 12.5		1 12.5	1 12.5	2 25.0	1 12.5			1 12.5	1 12.5				8 100.0
(11)生命科学系							1 33.3				1 33.3		1 33.3								3 100.0
(12)複合・学際系												1 25.0		2 50.0	1 25.0						4 100.0
(13)生涯学習系												1 25.0				1 25.0	2 50.0				4 100.0
(14)外国語系													1 16.7	1 16.7			3 50.0		1 16.7		6 100.0
(15)日本語・日本事情																1 33.3			1 33.3	1 33.3	3 100.0

「総合満足度」(質問12)の度数分布(該当科目数と割合;平成18年度後学期)

「総合満足度」の 評点	(上段:科目数, 下段:割合)																				計
	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	
全体	2 1.1		1 0.5	1 0.5	1 0.5	2 1.1	1 0.5	3 1.6	5 2.7	8 4.4	12 6.6	18 9.8	20 10.9	24 13.1	19 10.4	25 13.7	21 11.5	8 4.4	5 2.7	7 3.8	183 100.0
(1)英語				1 3.7					2 7.4	2 7.4		5 18.5	1 3.7	6 22.2	3 11.1	4 14.8	1 3.7	1 3.7	1 3.7		27 100.0
(2)コミュニケーション英語					1 3.6					1 3.6		4 14.3	3 10.7	1 3.6	5 17.9	2 7.1	4 14.3	6 21.4		1	28 100.0
(3)初修外国語(通年)			1 3.3			1 3.3				2 6.7	3 10.0	2 6.7	6 20.0	7 23.3	3 10.0	3 10.0	2 6.7				30 100.0
(4)保健体育科目														2 8.0	5 20.0	6 24.0	7 28.0	5 20.0			25 100.0
(5)現代の社会と倫理	1 12.5							2 25.0		1 12.5	1 12.5	1 12.5					1 12.5		1 12.5		8 100.0
(6)人間と文化							1 9.1					2 18.2	2 18.2	2 18.2		2 18.2	2 18.2				11 100.0
(7)現代社会の課題								1 14.3			2 28.6	1 14.3	2 28.6			1 14.3					7 100.0
(8)自然と生命	1 11.1				1 11.1		1 11.1			1 11.1	2 22.2	2 22.2		1 11.1							9 100.0
(9)文化・社会系							1 10.0						3 30.0		3 30.0	1 10.0	1 10.0			1 10.0	10 100.0
(10)科学・技術系									2 25.0		1 12.5	2 25.0		1 12.5	1 12.5					1 12.5	8 100.0
(11)生命科学系									1 33.3			1 33.3				1 33.3					3 100.0
(12)複合・学際系														1 25.0	1 25.0	2 50.0					4 100.0
(13)生涯学習系															1 25.0			1 25.0	2 50.0		4 100.0
(14)外国語系												1 16.7					1 33.3	1 16.7		3 50.0	6 100.0
(15)日本語・日本事情													1 33.3							2 66.7	3 100.0

第3章 教員によるFD活動レポート

【1】学生による評価と教員の自己評価の比較

表3-1に「学生による授業評価」の質問項目と「教員のFD活動レポート」の質問項目Aの対応を示す。表3-2にFD活動レポート質問項目8、1-7に対する4段階評価⁽¹⁾の平均値を示す。比較のために学生による授業評価から同様な平均値を対応する項目に併記した。また、平均値の統計的有意性を判断するために科目区分ごとの平均受講者数と科目合計を追加した。FD活動レポート平均値が授業表価値より高い項目については網掛けで表示した。

⁽¹⁾ 4段階評価；④あてはまる、③ややあてはまる、②あまりあてはまらない、①あてはまらない

表 3-1「学生による授業評価」の質問項目と「教員のFD活動レポート」の質問項目対応表

学生による授業評価		教員のFD活動レポート	
1	私は75%以上授業に出席した。		
2	私は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ。		
3	私はこの科目の「達成目標」に到達した。	8	シラバスに掲げた当初の授業目標(ねらい)は達成された。
4	授業はシラバスに沿って行われた。	1	シラバスに沿って授業を行えた。
5	授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。	2	学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。
6	話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。	3	話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。
7	重要なポイントが明らかで、説明も分かり易かった。	4	重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。
8	学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。	5	学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。
9	授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。	6	授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。
10	クラスサイズ(受講生数)は適切だった。		
11	学習環境は適切だった。		
12	満足できる授業だった。	7	総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

表 3-2 「教員の FD 活動レポート」回答番号の科目ごとの平均値比較

科目区分		回答率 ¹	平均受講者数	質問項目と平均値 ^{2,3}							
				8	1	2	3	4	5	6	7
大学教育基礎科目	英語	26/29	41	3.4 (3.1)	3.8 (3.5)	3.7 (3.4)	3.5 (3.4)	3.7 (3.3)	3.4 (3.2)	3.4 (3.3)	3.4 (3.3)
	コミュ英語	20/28	39	3.4 (3.0)	3.8 (3.6)	3.4 (3.5)	3.2 (3.4)	3.7 (3.3)	3.3 (3.3)	3.4 (3.3)	3.3 (3.4)
	初修外国語	29/35	60	3.6 (2.9)	3.9 (3.5)	3.9 (3.3)	3.5 (3.3)	3.9 (3.2)	3.7 (3.1)	3.4 (3.2)	3.7 (3.3)
	保健体育科目	22/25	36	3.2 (3.5)	3.5 (3.7)	3.6 (3.6)	3.0 (3.6)	3.4 (3.5)	3.3 (3.5)	2.0 (3.1)	3.2 (3.6)
主題教養科目	現代の社会と倫理	5/9	138	3.0 (3.1)	3.0 (3.5)	2.8 (3.2)	3.0 (3.1)	3.2 (3.0)	3.2 (3.0)	2.2 (2.9)	3.4 (3.1)
	人間と文化	11/11	87	3.4 (3.2)	3.5 (3.4)	3.7 (3.4)	3.3 (3.3)	3.5 (3.3)	3.3 (3.3)	2.8 (3.0)	3.3 (3.4)
	現代社会の課題	6/9	113	3.4 (3.0)	3.7 (3.4)	3.5 (3.3)	3.2 (3.2)	3.7 (3.2)	3.2 (3.1)	2.7 (2.7)	3.5 (3.2)
	自然と生命	9/10	106	3.2 (2.9)	3.8 (3.4)	3.3 (2.8)	3.3 (3.0)	3.7 (2.8)	3.0 (2.8)	2.1 (2.6)	2.9 (2.9)
選択教養科目	文化・社会系	10/10	48	3.3 (3.2)	3.5 (3.6)	3.5 (3.5)	2.8 (3.4)	3.1 (3.3)	3.3 (3.3)	2.5 (2.9)	3.4 (3.4)
	科学・技術系	7/9	44	3.3 (3.1)	3.7 (3.5)	3.4 (3.4)	3.1 (3.4)	3.6 (3.3)	3.0 (3.2)	2.3 (2.8)	3.0 (3.4)
	生命科学系	3/3	81	3.5 (3.1)	4.0 (3.5)	3.5 (3.2)	3.0 (3.1)	3.0 (3.1)	3.5 (3.1)	2.0 (2.6)	3.0 (3.3)
	複合・学際系	4/4	53	3.3 (3.2)	3.5 (3.6)	3.8 (3.7)	3.5 (3.6)	3.5 (3.5)	3.3 (3.4)	2.5 (2.9)	3.3 (3.5)
	生涯学習系	4/4	142	3.8 (3.5)	3.8 (3.7)	3.8 (3.7)	3.3 (3.7)	3.5 (3.7)	3.5 (3.6)	2.3 (3.3)	3.8 (3.8)
	外国語系	4/7	16	3.3 (3.3)	3.8 (3.8)	3.5 (3.6)	3.3 (3.7)	4.0 (3.5)	3.8 (3.7)	3.8 (3.5)	3.3 (3.8)
日本語	日本語・事情	2/2	3	4.0 (3.5)	4.0 (3.9)	4.0 (4.0)	4.0 (4.0)	4.0 (3.8)	3.0 (3.8)	3.0 (3.9)	3.7 (3.8)
全体平均 ⁴			67	3.4 (3.1)	3.7 (3.5)	3.6 (3.4)	3.3 (3.4)	3.6 (3.3)	3.3 (3.3)	2.7 (3.1)	3.3 (3.4)

- 1、回答科目数/開講科目数
- 2、()内の数値は「学生による授業評価」からの平均値
- 3、網掛けセルは学生による授業評価平均値が FD 活動レポート値と比べて高い項目
- 4、科目数のみ総計

表 3-2 の結果から、主に FD 活動レポートと授業評価の比較に基づいて議論する。昨年と同様、全体として教員側の自己評価が高い傾向がみられる。全体平均によれば、項目 6 が目立って学生の評価が高い。これは昨年と同様な傾向であるが、この原因を解析するためには各講義においてどれほど予習や復習を課したかに関する具体的なデータが必要である。実際、語学系科目を除き、受講生に宿題等を実質的に要求しているのかどうか疑問である。一方、質問項目 8 と 4 は、FD 活動レポート平均値が高い項目でかつ最大の差を示したものである。これらの差を有意とすれば、学生は教員が自負するほど高い達成度が得ら

れたと意識せず、また分かりやすい説明を受けたと感じていないことになる。これは例年の傾向のようである。

次に、科目ごとの特徴について考察する。保健体育科目が項目2を除き、学生の授業評価が高く、項目3の差が最大となった。他に、現代の社会と倫理科目、および外国語系を除く選択科目群において授業評価がより高い傾向が4項目以上で認められた。特に、項目3“話し方、板書のし方、機器の使い方”および項目6“予習・復習“について、授業評価の値が高く、差も大きい。一方、外国語を除くすべての科目で項目6のFD活動レポート値が低く、教員側が予習・復習を課する量が少なすぎたと考えているようだ。日本語科目において項目5および6は授業評価が高く、その差も表全体で最大となった。しかし、この科目群の平均受講者数は3人のため、他の科目と同等に議論できない。初修外国科目語においてFD活動レポート値が高い傾向となり、特に質問項目8の差が最大となった。既に述べたように講義内容・方法を解析しない限り理由付けはできないが、科目・科目群によってFD活動レポート評価/授業評価比のパターンが明確に異なるという興味深い傾向が得られた。

全体として教員側の自己評価が高い傾向は例年通りである。

科目・科目群によってFD活動レポート評価/授業評価比のパターンは明確に異なる。

【2】FD活動レポート質問項目Bの集計と自由記入欄の回答内容

FD活動に関する質問項目Bの回答を集計と自由記入欄の回答内容を科目ごとに整理した。自由記入回答において、複数科目を担当する教員が同じコメントを記載している場合があり、それらは重複回答とみなし、ひとつだけ記載した。

INDEX

大学教育基礎科目

【2-1】英語	26
【2-2】コミュニケーション英語	29
【2-3】初修外国語	31
【2-4】健康スポーツ科学	33

主題教養科目

【2-5】現代の社会と倫理	35
【2-6】人間と文化	35
【2-7】現代社会の課題	37
【2-8】自然と生命	38

選択教養科目等

【2-9】文化・社会系	39
【2-10】科学・技術系	41
【2-11】生命科学系	42
【2-12】複合・学際系	42
【2-13】生涯学習系	43
【2-14】外国語系	44
【2-15】日本語・日本事情	44

【2-1】 英語

- この授業科目に関してこの一年間取り組んだ FD 活動

- ① 他教員の授業参観（回答数；5）
- ② 学内外の FD 講演会等への参加（回答数；8）
- ③ 他大学の FD 活動の視察（回答数；0）
- ④ その他（回答数；9）
 - * 授業内容にかかわる事項の調査。
 - * FD 関連資料の閲覧。
 - * 学生に時々、授業について意見を聞いた。
 - * 授業内容の意見交換。
 - * 学外の教員研修，セミナーなどへの参加。
 - * 学生自身による目標の設定。
 - * 授業内容の意見交換。
 - * 授業内容関連事をしらべる。

- 今後取り組もうと考えている FD 活動

- ① 他教員の授業参観（回答数；10）
- ② 学内外の FD 講演会等への参加（回答数；8）
- ③ 他大学の FD 活動の視察（回答数；4）
- ④ その他（回答数；9）
 - * 今年は海外研修を充実させたい。
 - * 英語の勉強につとめる。
 - * FD 関連資料の閲覧。
 - * 授業内容の意見交換。
 - * 授業内容の意見交換。
 - * web-class で教室外の学習。
 - * 英語の学習につとめる。

自由記入欄回答

- 何らかの理由で英語を嫌いになっている人に、少しでも自分でやってみようかと感じるきっかけになればと思ってやりましたが、半期の短期間ではあらためて難しいと感じました。自発的な発表も何人かはありましたが、討論や発表など、自ら進んでやれる形式を更に工夫できればと思っています。
- 時間変更等のために時間数が少なくなりシラバス達成のため、あせった感がある。
- 42 人の個々の能力を考慮した上で、一点に焦点を集める事のむづかしさを痛感します。
- リーディング中心の授業としてはそれなりのことはできたと思っている。課題としては、学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てるといった面がうまくいったようには思えないこと、および、課題の量の設定に問題があったように思えることである。

- ・ 過年度生に関しては、個人的に学習上の問題その他について、相談に応じた。
- ・ 使用テキストは学生の興味をひくものだったが、精読を行ったために、進度は遅くなり、学力の高い学生には遅すぎたかも知れない。英文記事の要約は学生の主体的な学習をうながすことができたと思う。
- ・ 読解クラスであるが、文法訳読は避け、多様な読解活動を実施できた。学生に活動の前と後で力が伸びていることを実感させるよう心がけた。クラスのblogを開設し、授業の予告や記録、クラスのコミュニケーションに役立てるとともに、英語でのコメントを義務付けた。
- ・ 今年は2年目ということで、少し落ちついて、学生の反応を確かめながら授業を行えたと思う。しかし、定期試験以外に授業の効果（成果）を定期的に確認するまでにはまだ到っていないので、今後の課題としたい。
- ・ 授業以前の問題として、意欲のない学生にどうしたら「気力」を持たせられるか、苦しんだ。又、大変実力のある学生と、どうして入学出来たのかと思われる学生とのバラつきの中で、一つの目標を全員に課すことの困難さは常にあった。★他教員の授業を参観したいと思っています。
- ・ 毎年のようにいうことだが、語学の授業は学生の予習・復習が絶対条件である。それにも拘らず、学力の向上ができないのは教師の責任だと思っている学生が多い。こんな状況で、目標の達成など、望むべくもない。他の科目は知らないが、語学学習に関していえば、学生による授業評価に意味があるとは思えない。
- ・ 学生たちに活動を多くさせることができた点はよかった。グループ活動の時の、グループ分けが難しかった。
- ・ テキストは学生の興味をひくものだった。英文のレベルも学生に合っていた。英文記事の要約は学生の主体的な学習をうながせたと思う。小テストの返却ができなかったことが反省点である。
- ・ 推薦や編入で入った学生のレベルに合わせる訳にはいかないところがあり、ある学生にとってはレベルが不満足という評価を受けている。
- ・ 時間割変更等による時間数不足が授業の進度に影響し、あせらざるを得ないときが多々ある。
- ・ 工学部の学生にとって、重要と思われる素材を扱うテキストを使用した。個人の能力とテキストそのものの難しさもあって、消化不良の学生がいる様に思え、残念でした。テキストはもっと容易な方がよいのか、それともゴールは高くモチベーションを揚げた方がよいのか？学生の中には科学雑誌に対して取り組もうという意欲を持ってくれたのもいた。
- ・ 既習文法の復習をしながら、その文法を単なる知識だけに終わらせず、実際に起こりうる場面や状況を設定して、応用練習させたことはよかったと思う。又、reading教材も内容が多種多様で、よかったと思う。予習・復習を課題としたが、予習の徹底ができなかったことが反省点である。前期の学生による授業評価の結果をふまえて、後期の授業内容、目標などを変更したこともよかったと思う。
- ・ 発表などは“自発的に”を目標にやりましたが、必ずしも英語をする必然性を見いだせ

ない学生もいるので、なかなか難しかったです。発表や討論など、出来る限り学生が参加できるような形式を更に工夫できればと考えています。

【2-2】コミュニケーション英語

- この授業科目に関してこの一年間取り組んだFD活動
 - ① 他教員の授業参観（回答数；9）
 - ② 学内外のFD講演会等への参加（回答数；13）
 - ③ 他大学のFD活動の視察（回答数；0）
 - ④ その他（回答数；12）
 - * 学会などでの該当発表を聞くなど。
 - * 学生に時々、授業のやり方等について意見を聞いた。
 - * 学会などでの該当発表を聞くことなど。
 - * 専門的ワークショップ、会議等。

- 今後取り組もうと考えているFD活動
 - ① 他教員の授業参観（回答数；11）
 - ② 学内外のFD講演会等への参加（回答数；12）
 - ③ 他大学のFD活動の視察（回答数；0）
 - ④ その他（回答数；9）
 - * webを使った教室外学習。
 - * 専門的ワークショップ、会議等。

自由記入欄回答

- リスニングの訓練が十分にできたとは思えないところがある。リスニングを組み入れて変化を持たせる授業を工夫するのがなかなか難しい。
- 授業の目的に沿って講義は進めていけたと思っているが、学生の満足度はいまいち[ママ]だったかもしれない。最後の授業で別にアンケートをとって、学生が不満に思う部分を書いてもらい、今後に活かしたい。
- 一人一人の力をそれぞれ少しずつ伸ばすことを目標としたので、その点はほぼ達成できていると感じた。が、レベルをふまえて、という部分で、受講生の方で周囲とのレベルの差を感じて嫌になっている人もいたことが授業評価からわかった。個人としてはスタートより伸びているのにそういう風を感じさせてしまったのは残念だし反省している。Listening（とReading）とWritingに焦点を半々であてたが、Writingにしぼってもよかったかもしれない。筋道の通った文章で自分の考えを表現するための学習を設定したが、その部分の苦手な学生さんは慣れないことできつかったようだ。レベル差があまりに大きく、難しいし、人数も多いが、受講生の取りくみは真剣でよかったと思う。
- たとえば、「コミュニケーションスキルの時間を取ってほしい」「コミュニケーション英語だから文法よりもコミュニケーションをとることを大切にしてほしい」という要望はまるでそういうことをしていないかのように第3者には聞こえる。実際にそういう時間を与えると日本語でおしゃべりをしているか、書かれたものを見ながら英語を再現している（これはほとんど効果なし！）。学生の（表面的に）批判的な意見の背後にあるメ

ッセージを読み取れるのは担当教員しかない。

- 毎年のようにいうことだが、語学の授業は学生の予習・復習が絶対条件である。それにも拘らず、学力の向上ができないのは教師の責任だと思っている学生が多い。こんな状況で、目標の達成など、望むべくもない。他の科目は知らないが、語学学習に関しては、学生による授業評価に意味があるとは思えない。
- DVD 教材を用いて、生きた教材を授業で活用しようと試みたが、英語のレベルが学生の理解度をかなり超えていた様で、学生の努力も必要だが、教材のレベル設定をもう少し慎重にすべきだと反省する点がある。
- 問題集の解答を教室外学習として web-class でその解答をしめしたが、誤植があり、受講生から誤解答との指摘をうけたことがある。どこかに教室外ということで緊張感に欠けていたとの反省。
- 前期の試験で不合格だった学生に関しては、個人的に学習の仕方等について相談に応じた。
- クラスサイズが大きいこと、レベルの差の大きさがかなりあるようで、対応したやり方を試みたつもりだったが、受講生の「レベルをふまえて」という受け取り方と差があったのかもしれない。プリンターのトラブル、メディアプレイヤー・メールのトラブルがかなりあって、対応する方がどなたなのかわからず、困ったことも度々だった。期待した以上に受講生は真剣に取り組んでくれ、正直驚いた。筋道の通った文章で自分の考えを表現するための個別学習を設定したが、慣れないことで恐らくきつかったと思う。Listening の方は、別の機会に分けた方が負担は少なかったかもしれない。

【2-3】初修外国語

- この授業科目に関してこの一年間取り組んだFD活動
- ⑤ 他教員の授業参観（回答数；6）
- ⑥ 学内外のFD講演会等への参加（回答数；7）
- ⑦ 他大学のFD活動の視察（回答数；3）
- ⑧ その他（回答数；12）
 - * ドイツ人教員を中心として全ドイツ語教員の授業に関する共同作業。
 - * 教科書執筆。
 - * 大学以外のFD講演会に参加。
 - * 他大学の教員との教授法研究会に参加。
 - * 大学以外のFD講演会に参加。
 - * 他大学の教員との教授法研究会に参加。
 - * 共通教育協議会の発表会に参加、発表した。

- 今後取り組もうと考えているFD活動
- ⑤ 他教員の授業参観（回答数；9）
- ⑥ 学内外のFD講演会等への参加（回答数；7）
- ⑦ 他大学のFD活動の視察（回答数；3）
- ⑧ その他（回答数；12）
 - * 教科書執筆。
 - * 大学以外のFD講演会に参加。
 - * 他大学の教員との教授法研究会に参加。
 - * 大学以外のFD講演会に参加。
 - * 他大学の教員との教授法研究会に参加。
 - * 共通教育協議会の発表会に参加、発表した。

自由記入欄回答

- ・ クラスの人数があまりに多すぎる。新しい方法を用いた会話の授業がまったくできない。
- ・ 教えるべき内容が全部教えられなかった。もう少し分量の少ない教科書を選ぶべきだった。
- ・ 今後は、黒板を利用する時、ポイントをまとめて書く。口頭だけでは、理解していない学生がいるから。
- ・ クラス人数が多すぎると思います。
- ・ 中国語検定試験（準）四級に合格した学生が数名いたので、今後も学生達に中国語の興味を伝えていきたい。黒板の活用法にも注意し、学生に理解しやすい講義をしていく。
- ・ 評価できる点として、今年度はほぼ毎週、小テストを実施した。問題作成や採点は大変だったが、授業外学習を促すことができ、有意義な取り組みであったと感じている。来年度以降もできる限り努力したい。反省点は、後期になってから事務作業面で非常に多

忙な仕事を抱えることになり、授業開始時間が遅れる事があった。この点は来年度は気をつけたい。

- ・ 評価できる点として、今年度はほぼ毎週、小テストを実施した。問題作成や採点は大変だったが、授業外学習を促すことができ、有意義な取り組みであったと感じている。来年度以降もできる限り努力したい。反省点は、後期になってから事務作業面で非常に多忙な仕事を抱えることになり、授業開始時間が遅れる事があった。この点は来年度は気をつけたい。
- ・ 中国語だけでなく、自分の中国語学習体験談などを交えて講義をしてきたので、学生に学習意欲は少し出てきたと思う。
- ・ 学生の理解度やレベルにも差が激しく合わせにくいです。日本人ではないので、どうしても完璧にできない部分がある。工夫した。学生に意外と評価されない。わからない。前期にもアンケートを積極的に取りましたが、結果報告書を拝見したかったです。
- ・ 今後、学生により中国語に興味をもって学習してもらうために、パワーポイントを使った講義を行っていく。

【2-4】健康スポーツ科学

- この授業科目に関してこの一年間取り組んだ FD 活動

- ① 他教員の授業参観（回答数；2）
- ② 学内外の FD 講演会等への参加（回答数；9）
- ③ 他大学の FD 活動の視察（回答数；3）
- ④ その他（回答数；5）
 - * 教授法の調査。
 - * テニスの指導法に関する勉強を行った。
 - * 技術の確認。

- 今後取り組もうと考えている FD 活動

- ① 他教員の授業参観（回答数；3）
- ② 学内外の FD 講演会等への参加（回答数；9）
- ③ 他大学の FD 活動の視察（回答数；4）
- ④ その他（回答数；4）
 - * 教授法の調査。
 - * 技術の確認。

自由記入欄回答

- ・ 授業中、器具の適切な選択を誤り、事故を発生させた為、基本的に実技の授業であり、用具等を学生が所持していない事を考慮して、予習・復習は課していない為、授業中のリスクマネジメントの重要性と学内体育施設の維持管理に重大性を痛感する。
- ・ 今年の学生の質の違いにとまどいがあった。例年と同様に授業を進めているのだが、取り組みの悪い面がいくつか見受けられた。次年度もそうなのであろうか？
- ・ 学生の日々の理解度、到達度を的確に把握する方法を考えているが、実践できていない。科目全体で共通的に把握する方法を考え、それを全体的に FD 活動等で検討していく場が欲しい。
- ・ 実技担当ではあったが、運動の必要性や具体的方法を資料によって解説したり、エアロビックダンス、ストレッチング、筋コンディショニング、etc の動作のメカニズムを理解させ、より認識を深めることによって、運動への動機づけを高めた。
- ・ 前学期の授業では受講生の意欲に助けられていた。後学期の受講生の状況を把握しきれず、不十分な授業だったと反省しています。非常勤という立場のため遠慮することが多かったが、本務校でのようにズバリ指摘する方が受講生も好意的に受けとめてくれるということが分かった。
- ・ 雨天時（実技）の対応を考える必要がある。
- ・ 以前は実技のみであったので、十分時間が確保でき、学生の満足度も高かったが、3～4回の講義が入って来てから、実技修得が中途半端になっている。財政が優先すると教育にとり返しのつかないマイナス状況が生じることを、共通教育関係委員会、経営側は

真剣に考えるべきだと思う。

- 受講人数の割には、良くまとめて集団指導ができていると感じているが、どうしても個別の指導まで手が回らないのが実情である。
- 学生の個々の変化（伸び）をチェックする方法がなかなか実践できない。全体的にはアンケート等で掴めるが、日々の授業における理解度、満足度等を把握する方法を、それも容易に取り組める方法を考えてみたい。
- 実習の中で、教えられるものを工夫する必要があると感じました。
- 自由記述の「ルールを知っていて当たり前という周りの雰囲気が辛かった」から、未経験者に対する配慮が少なかったことを反省した。学習者のレベルに合わせてルールを変更してもよいことを事前にしっかり伝えたい。また、「教師もルールを覚えた方がよい」という意見からも、「ルールとは」について深く考える場を設定しなかったことが悔やまれる。これらの反省点を次年度の内容に活かしていきたい。

【主題教養科目】

【2-5】現代の社会と倫理

- この授業科目に関してこの一年間取り組んだ FD 活動
 - ① 他教員の授業参観（回答数；1）
 - ② 学内外の FD 講演会等への参加（回答数；3）
 - ③ 他大学の FD 活動の視察（回答数；0）
 - ④ その他（回答数；2）

- 今後取り組もうと考えている FD 活動
 - ① 他教員の授業参観（回答数；1）
 - ② 学内外の FD 講演会等への参加（回答数；3）
 - ③ 他大学の FD 活動の視察（回答数；0）
 - ④ その他（回答数；2）

自由記入欄回答

- シラバス後半部分の内容をかなり変更したが、少し準備不足であり他講義との重複も多かった、と反省している。来年度はきちんとテキストを使ってわかりやすく授業を行いたい。
- メール連絡の不備（担当者がメールを見ていない）から、担当者の一人が講義時間を間違え、欠講となり、補講を行なうこととなった。今後、このようなことが起こらないように、世話人は、連絡方法の改善に取り組みたい。

【2-6】人間と文化

- この授業科目に関してこの一年間取り組んだ FD 活動
 - ① 他教員の授業参観（回答数；4）
 - ② 学内外の FD 講演会等への参加（回答数；4）
 - ③ 他大学の FD 活動の視察（回答数；0）
 - ④ その他（回答数；3）
 - * 授業公開。
 - * 専門的ワークショップ、会議等。

- 今後取り組もうと考えている FD 活動
 - ① 他教員の授業参観（回答数；6）
 - ② 学内外の FD 講演会等への参加（回答数；5）
 - ③ 他大学の FD 活動の視察（回答数；2）

④ その他（回答数；1）

* 専門的ワークショップ、会議等。

自由記入欄回答

- ・ 現実問題として、多人数の学生に予習・復習など課せない。処理が出来ない。「やれ」と言うだけなら出来るが。
- ・ A5:某月某日、その日の1コマ、1回ぼっきりでその日の授業内容を完結すべきか、それとも後日の応用から改めて授業内容を組み立てるべきか判断に迷うところがある。
A6:現実的な問題として日々の学生の生活においてアルバイトにおわれる学生や他の授業の予習・復習とのかねあいを考えると時間のかかる課題を出し難い面があり、工夫を要するところである。学生の理解度については充分考慮しているが、わかり易さを念頭に割り切った話をする学生がナーンダという顔をするし、学生がフーンと思うようなやや複雑な問題を取りあげると、その時は面白くても、後々教養として残るだろうか、些か心配であり判断に迷う。それと、学生の今日的ニーズを教員が良く知ること重要と思うが、それをつかむ方法手だてではないものか。以上です。
- ・ 156名の大きなクラスですので、工夫しても限界がある面もありあすが出来る限り学生が参加できるような形式を更に工夫できればと考えています。毎回、十数人に感想や意見を聞くくらいが精一杯でした。学生の感想にも人数の多さが何とかならないかというのが結構ありました。共通教育全体や大学全体の問題ですが、156名は、やはり多いと思います。全学出動体制の理念や実態を改善するしかないと思いますが、希望は薄そうですね。
- ・ 今期は最後の授業を風邪で休んだため、まとめを十分に行うことができなかつた。近・現代の身近な美術を十分にとりあげることができるような時間配分を考える必要性を感じた（次年度の課題）。美術作品の理解のために、授業でとりあげる作品についてはワークシートを作成し、全作品分を前渡ししている。毎回授業に受講カードを配付し、質問があった場合は、次の授業の冒頭に口頭で内容を紹介し、コメントしている。
- ・ 145人の受講学生に対する課題学習をどのようにさせるかが今後のポイント。毎時間、学生に与えた独自の受講表への授業に対するコメントをチェックし、朱書きして返す方法は効果的だったと思う。ただし145人全員に対して朱書きするには時間がかかり結構大変だったが、その方法によって145人の一人一人の意見に耳を傾けることはできたと考える。

【2-7】現代社会の課題

- この授業科目に関してこの一年間取り組んだ FD 活動

- ① 他教員の授業参観（回答数；2）
- ② 学内外の FD 講演会等への参加（回答数；6）
- ③ 他大学の FD 活動の視察（回答数；0）
- ④ その他（回答数；1）

- 今後取り組もうと考えている FD 活動

- ① 他教員の授業参観（回答数；3）
- ② 学内外の FD 講演会等への参加（回答数；5）
- ③ 他大学の FD 活動の視察（回答数；1）
- ④ その他（回答数；1）

* 内容の精選。

自由記入欄回答

- ・ 学生のレベルに合わせるつもりで、説明を簡略化したが、かえって分かりにくい点もあったかもしれない。講義の前半部分を精選し、後半部分で今期から導入した新観点をもう少し充実させ、全体の内容上のバランスを、もっと学生の関心を引きつけられるものに改善したい。
- ・ 154名という大人数の授業であったが、出席カードに意見・感想・質問欄をつくり、で学生の反応を確かめながら授業を行ったので、学生の関心を引きつけることができたと思う。
- ・ FD 研修会や他教員の授業参観等の意義を否定する訳ではないが、ここ数年、FD 関連の「行事」に割く時間や労力は増加する一方であり、それに見合った効果が果たして出ているのか、その「行事」自体が自己目的化していないかは、そろそろ検証すべき時に来ているように思う。個人的には、この手の「行事」等に時間を取られるよりは、むしろ、講義の「内容」自体の進化にエネルギーを投入したいと願っている。
- ・ 学部を越えて求められる教養を目指すという目的に沿った講義を行うことができた。

【2-8】 自然と生命

- この授業科目に関してこの一年間取り組んだ FD 活動

- ① 他教員の授業参観 (回答数 ; 1)
- ② 学内外の FD 講演会等への参加 (回答数 ; 5)
- ③ 他大学の FD 活動の視察 (回答数 ; 0)
- ④ その他 (回答数 ; 1)

* 板書を多くした。

- 今後取り組もうと考えている FD 活動

- ① 他教員の授業参観 (回答数 ; 5)
- ② 学内外の FD 講演会等への参加 (回答数 ; 2)
- ③ 他大学の FD 活動の視察 (回答数 ; 0)
- ④ その他 (回答数 ; 1)

自由記入欄回答

- ・ 学生にマッチした授業が大変困難。クラスの構成を考えて欲しい。
- ・ 学生の授業態度は概ね真面目である。1年生ながら知的好奇心をすこしでも与えるような内容に心掛けたつもりであるが、講義の後に質問などの反応がなかった。さらに、授業評価アンケートも特筆すべき回答はなかったようである。
- ・ 自分では話し方等、工夫しているつもりだが、なかなか学生はそう思わない所が問題だ。少し学生達に予習・復習の課題を出そうと思う。
- ・ FD 活動 : ・ 授業内容の検討に多くの時間を割いた。・ 多くの資料を用意した。・ 各講義ごとに小テストを実施した。・ 各講義ごとに意見・感想を書かせ、教員側からのコメントを付し、返却した。ただ意見・感想に内容があり、学習の意欲が感じられるものは極めて少なく、FD 云々以前の問題ではないかと感じられた。
反省点 : ・ 講義の内容を補充する資料を数多く配布したことで、学生からすれば、授業の見通しが逆に悪くなった面があるかもしれない。学生の資質を計算に入れた表現方法を探るべきであることを痛感した。
- ・ 図や表を多くし、板書も非常に多くし、ノートを取ることで理解と記憶を刻みつけるように工夫をした。また、居眠りや授業中のおしゃべりも繰り返し注意し、大学での授業を学ぶという意識を何度も喚起したが、今年度の学生は今までに比べると、注意にはふてくされ、自分が理解できないのを教員のせいにするのが目立ったのが残念である。学生というよりも、ものに対して授業をしている感じが大きくなった気がする。もし FD を進めるつもりなら、少人数教育を望みたい。

【選択教養科目等】

【2-9】文化・社会系

- この授業科目に関してこの一年間取り組んだFD活動
 - ① 他教員の授業参観（回答数；3）
 - ② 学内外のFD講演会等への参加（回答数；7）
 - ③ 他大学のFD活動の視察（回答数；1）
 - ④ その他（回答数；9）

- 今後取り組もうと考えているFD活動
 - ① 他教員の授業参観（回答数；5）
 - ② 学内外のFD講演会等への参加（回答数；5）
 - ③ 他大学のFD活動の視察（回答数；2）
 - ④ その他（回答数；0）

自由記入欄回答

- 1. この講義は①社会システム論、②ジェンダー論、③消費社会論の合計三つの分野をシラバスに予告しているが、実際には①と②に時間を取られ、③は割愛した。ただし初講時に③は時間がなければ割愛することは伝えてあった。

6. 予習・復習を促すための時間的余裕がなかった。この講義の場合、読書案内とかの方法が適切だと思うが、時間がなかった。

8も1に同じである。私は担当するすべての講義において、毎回、リアクションペーパーと名付けている紙を配って、学生の質問や感想を受け付け、質問には次回に答え、また、理解度を確かめながら進めているが、その結果、学生の興味関心に応じて、進度が変化し、時間的余裕がなくなることがある。次学期は、この点を特に改善したいと思う。
- 自分の最新の学問的問題意識を学生に提供できている点が評価点で、マイナスは機材があまりうまく使えないということだろう。
- A5:某月某日、その日の1コマ、1回ぼっきりでその日の授業内容を完結すべきか、それとも後日の応用から改めて授業内容を組み立てるべきか判断に迷うところがある。

A6:現実的な問題として日々の学生の生活においてアルバイトにおわれる学生や他の授業の予習・復習とのかねあいを考えると時間のかかる課題を出し難い面があり、工夫を要するところである。学生の理解度については充分考慮しているが、わかり易さを念頭に割り切った話をすると学生がナーンダという顔をするし、学生がフーンと思うようなやや複雑な問題をとりあげると、その時は面白くても、後々教養として残るだろうか、些か心配であり判断に迷う。それと、学生の今日的ニーズを教員が良く知ることも重要と思うが、それをつかむ方法手だてではないものか。以上です。
- 評価できる点：教材の厳選 マルチメディアの活用；反省すべき点：1回の授業時間内の時間配分（予定していた内容をすべて紹介できないことがあった）

- 来年度から開講時期を前期に変更するので、おそらく受講者が増えると思う。プレゼンテーション式の講義によって授業方法の改善を図りたい。

【2-10】 科学・技術系

- この授業科目に関してこの一年間取り組んだ FD 活動

- ① 他教員の授業参観 (回答数 ; 2)
- ② 学内外の FD 講演会等への参加 (回答数 ; 4)
- ③ 他大学の FD 活動の視察 (回答数 ; 0)
- ④ その他 (回答数 ; 2)
 - * 課題の精選。
 - * JABEE 審査 (オブザーバ)。

- 今後取り組もうと考えている FD 活動

- ① 他教員の授業参観 (回答数 ; 2)
- ② 学内外の FD 講演会等への参加 (回答数 ; 5)
- ③ 他大学の FD 活動の視察 (回答数 ; 0)
- ④ その他 (回答数 ; 2)
 - * 課題の精選。
 - * JABEE 審査 (オブザーバ)。

自由記入欄回答

- ・ 図面のバランス、線の引き方、図学は手順であること等を徹底して教えた。また、図学は積み重ねであるため欠席した学生が教え方に不満を述べていたがこれは仕方ないことだ。講義の終わり近くになれば、今までどのような態度で、この授業に臨んでいたかが明確に現れる。後半になって、ぐんぐん伸びてくる学生もいる。こんな学生がいることに私は教えがいを感じる。
- ・ 遅刻者、私語をする学生に対して、どこまで厳しく対応すべきか。そうでない学生には不満がある。
- ・ 現在、コンピュータ実習室を利用して、授業を行っている。学生は、基本的なコンピュータの操作はある程度マスターしているが、背景にある概念や論の進め方に関しては不十分な学生も見られる。その点を今後改良していく必要がある。そのための教材の見直しや、授業方法の改善を今後考えて生きたい。
- ・ 今年でこの科目は2年目であり、受講学生数も増えたが、真に興味を持って聴講しているのは一部（特に医学部は真面目）の学生にすぎなかったことが残念であった。

【2-11】生命科学系

- この授業科目に関してこの一年間取り組んだ FD 活動
 - ① 他教員の授業参観 (回答数 ; 0)
 - ② 学内外の FD 講演会等への参加 (回答数 ; 1)
 - ③ 他大学の FD 活動の視察 (回答数 ; 0)
 - ④ その他 (回答数 ; 1)
- 今後取り組もうと考えている FD 活動
 - ① 他教員の授業参観 (回答数 ; 0)
 - ② 学内外の FD 講演会等への参加 (回答数 ; 1)
 - ③ 他大学の FD 活動の視察 (回答数 ; 0)
 - ④ その他 (回答数 ; 1)

自由記入欄回答

- 板書をわかりやすく書く必要があると思われる。
- 入力に関して、問題点があるように思える。

【2-12】複合・学際系

- この授業科目に関してこの一年間取り組んだ FD 活動
 - ① 他教員の授業参観 (回答数 ; 1)
 - ② 学内外の FD 講演会等への参加 (回答数 ; 3)
 - ③ 他大学の FD 活動の視察 (回答数 ; 0)
 - ④ その他 (回答数 ; 1)
- 今後取り組もうと考えている FD 活動
 - ① 他教員の授業参観 (回答数 ; 2)
 - ② 学内外の FD 講演会等への参加 (回答数 ; 4)
 - ③ 他大学の FD 活動の視察 (回答数 ; 0)
 - ④ その他 (回答数 ; 1)

自由記入欄回答

- パワーポイントやビデオを多くの場面で使用し、学生の興味・関心を引くような授業を心がけた。
- 共通教育科目で最も興味深い科目だったと書いてくれた学生が数人いたことがうれしかった。しかし同時に生物を履修していなかった学生からやや難しかったとは反省材料である。

- ・ オムニバスの授業のため、授業内容や授業方法が担当者によって大きく異なる。担当者間での授業内容の調整をもっと行ない、自然・歴史・文化・社会の相互の関連性を考えさせるような授業にする必要があると感じている。

【2-13】生涯学習系

- ・ この授業科目に関してこの一年間取り組んだ FD 活動

- ① 他教員の授業参観（回答数；1）
- ② 学内外の FD 講演会等への参加（回答数；3）
- ③ 他大学の FD 活動の視察（回答数；0）
- ④ その他（回答数；1）

＊ テニスの指導法に関する勉強を行った。

- ・ 今後取り組もうと考えている FD 活動

- ① 他教員の授業参観（回答数；1）
- ② 学内外の FD 講演会等への参加（回答数；2）
- ③ 他大学の FD 活動の視察（回答数；2）
- ④ その他（回答数；1）

自由記入欄回答

- ・ 以前は実技のみであったので、十分時間が確保でき、学生の満足度も高かったが、3～4回の講義が入って来てから、実技修得が中途半端になっている。財政が優先すると教育にとり返しのつかないマイナス状況が生じることを、共通教育関係委員会、経営側は真剣に考えるべきだと思う。
- ・ 一人の教官が受講生の希望する4種目について、それぞれにねらいを達成するような授業をつくるのは限界がある。そこで後期も、イン・リーダー（保健体育科の学生）と、本授業のねらいや活動の進め方を話し合い、それぞれの種目にふさわしい活動づくりを行った。そうしたイン・リーダーの存在および専門性が、受講者の高い評価につながったと考える。
- ・ 学生との対話を大切にしながら、自分の中にある「伝えたい」項目を真摯に丁寧に解説したと考える。反省点は教科書をもう少し有効に活用（特に復習事項として）できるように工夫していきたいと考えている。また、現在双方向講義に Q&A 方式を用いているが、更に一步前進して A&Q 方式に転換していきたいと考えている。18年度は FD でも報告させていただき自分の講義を客観的に見直すことができ、有意義であったと考えている。

【2-14】外国語系

- この授業科目に関してこの一年間取り組んだFD活動

- ① 他教員の授業参観（回答数；1）
- ② 学内外のFD講演会等への参加（回答数；2）
- ③ 他大学のFD活動の視察（回答数；0）
- ④ その他（回答数；3）

＊ 常に教材の検討をした。

＊ 大学以外のFD講演会に参加。

- 今後取り組もうと考えているFD活動

- ① 他教員の授業参観（回答数；1）
- ② 学内外のFD講演会等への参加（回答数；2）
- ③ 他大学のFD活動の視察（回答数；2）
- ④ その他（回答数；1）

＊ たくさんの英語に接する努力をさせた。

＊ 大学以外のFD講演会に参加。

自由記入欄回答

なし

【2-15】日本語・日本事情

- この授業科目に関してこの一年間取り組んだFD活動

- ① 他教員の授業参観（回答数；3）
- ② 学内外のFD講演会等への参加（回答数；0）
- ③ 他大学のFD活動の視察（回答数；0）
- ④ その他（回答数；0）

- 今後取り組もうと考えているFD活動

- ① 他教員の授業参観（回答数；2）
- ② 学内外のFD講演会等への参加（回答数；3）
- ③ 他大学のFD活動の視察（回答数；0）
- ④ その他（回答数；0）

自由記入欄回答

なし

第4章 科目ごとのデータ一覧

以下に平成18年度後学期のすべての共通教育科目(196科目)のうち「学生による授業評価」が提出された188科目のデータを掲載する(なお、初修外国語の工学部ドイツ語クラスについては、同一の教員及び学生構成で週2回授業のため、授業評価アンケートは一回のみ実施し、以下の表でもクラス数はそれを反映させる形を取った)。又、科目名・担当教員名も掲載せず、科目の順番は質問12(満足度)への評価の高い順に並べ直してある。

評価は「4:あてはまる。3:ややあてはまる。2:あまりあてはまらない。1:あてはまらない。」の4段階評価である。

また、質問項目は以下の12項目である。

A:回答者(学生)自身について

- 1 私は75%以上授業に出席した。
- 2 私は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ。
- 3 私はこの科目の「達成目標」に到達した。

B:担当教員の教え方について

- 4 授業はシラバスに沿って行われた。
- 5 授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。
- 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。
- 7 重要ポイントが明らかで、説明も分かり易かった。
- 8 学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。
- 9 授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。

C:その他

- 10 クラスサイズ(受講生数)は適切だった。
- 11 学習環境は適切だった。

D:総合的な授業評価

- 12 満足できる授業だった。

【1】英語(29科目)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	3.9	3.7	3.6	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9	3.7	3.8	3.8	3.9
2	3.9	3.7	3.2	3.6	3.8	3.8	3.6	3.8	3.4	3.8	3.8	3.8
3	3.9	3.5	3.1	3.7	3.3	3.5	3.4	3.5	3.6	3.8	3.8	3.7
4	3.8	3.5	3.0	3.6	3.4	3.6	3.6	3.6	3.4	3.6	3.6	3.6
5	3.9	3.5	3.2	3.6	3.7	3.4	3.5	3.5	3.0	3.6	3.5	3.6
6	3.9	3.5	3.2	3.6	3.5	3.6	3.6	3.6	3.2	3.6	3.6	3.6
7	3.9	3.7	3.3	3.7	3.6	3.6	3.5	3.6	3.6	3.8	3.6	3.6
8	4.0	3.5	3.1	3.7	3.6	3.6	3.6	3.4	3.6	3.8	3.8	3.5
9	3.8	3.3	3.1	3.6	3.5	3.3	3.2	3.0	3.5	3.7	3.5	3.5
10	3.7	3.2	2.9	3.5	3.5	3.5	3.5	3.2	3.5	3.7	3.6	3.5
11	4.0	3.3	3.1	3.5	3.7	3.6	3.3	3.3	3.5	3.7	3.7	3.4
12	4.0	3.5	3.2	3.6	3.4	3.2	3.2	3.3	3.5	3.7	3.5	3.4
13	3.7	3.0	3.0	3.5	3.4	3.4	3.5	3.1	3.4	3.5	3.4	3.4
14	3.8	3.5	3.3	3.7	3.6	3.5	3.5	3.2	3.3	3.5	3.5	3.4
15	3.9	3.1	3.1	3.7	3.6	3.4	3.4	3.2	2.8	3.7	3.6	3.4
16	3.6	3.1	2.7	3.2	3.3	3.6	3.1	3.4	3.0	3.7	3.8	3.4
17	3.9	3.3	3.2	3.5	3.4	3.6	3.2	3.3	3.2	3.4	3.4	3.3
18	3.9	3.3	3.0	3.2	3.1	3.5	3.1	3.4	3.1	3.6	3.4	3.2
19	3.9	3.4	3.1	3.7	3.3	3.2	3.2	3.1	3.3	3.6	3.4	3.2
20	3.9	3.4	3.2	3.6	3.3	3.3	3.5	3.2	3.5	3.6	3.6	3.2
21	3.8	3.3	3.0	3.5	3.2	3.3	3.1	3.2	2.8	3.7	3.6	3.2
22	3.8	3.4	3.0	3.5	3.3	3.1	3.2	3.0	3.3	3.5	3.5	3.2
23	3.9	3.2	2.7	3.6	3.0	3.1	3.1	2.7	3.5	3.7	3.6	3.0
24	3.9	3.1	3.0	3.4	3.2	3.2	3.0	3.0	3.1	3.7	3.7	3.0
25	3.9	3.1	2.8	3.3	3.0	2.9	2.9	2.7	3.2	3.6	3.5	2.9
26	3.8	3.2	2.8	3.4	3.1	3.0	2.9	2.6	3.2	3.3	3.4	2.9
27	3.7	3.0	2.6	3.0	2.5	2.1	2.1	2.2	3.1	3.2	3.2	2.4

※2科目が未提出。

【2】コミュニケーション英語(28科目)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	3.9	3.8	3.4	3.7	3.8	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9	3.9
2	3.9	3.5	3.1	3.6	3.7	3.6	3.5	3.7	3.1	3.8	3.7	3.7
3	3.9	3.4	3.1	3.8	3.8	3.8	3.8	3.6	3.6	3.7	3.6	3.7
4	3.8	3.4	3.1	3.6	3.6	3.7	3.6	3.4	3.7	3.7	3.7	3.7
5	3.9	3.8	3.4	3.7	3.9	3.7	3.6	3.7	3.4	3.9	3.7	3.7
6	4.0	3.7	3.3	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.8	3.8	3.7
7	3.9	3.9	3.5	3.7	3.6	3.7	3.5	3.7	3.4	3.8	3.7	3.7
8	3.9	3.2	3.0	3.8	3.6	3.6	3.7	3.2	3.7	3.7	3.5	3.6
9	3.8	3.5	3.2	3.5	3.8	3.6	3.6	3.4	3.5	3.7	3.6	3.6
10	3.9	3.6	3.0	3.6	3.7	3.7	3.5	3.8	3.1	3.8	3.8	3.6
11	3.9	3.7	3.5	3.6	3.6	3.7	3.6	3.6	3.4	3.7	3.5	3.6
12	4.0	3.1	3.0	3.3	3.6	3.5	3.3	3.3	3.3	3.6	3.5	3.5
13	3.9	3.2	2.8	3.5	3.5	3.5	3.1	3.3	2.8	3.6	3.7	3.5
14	3.9	3.5	2.7	3.5	3.5	3.5	3.4	3.3	3.1	3.8	3.6	3.4
15	3.9	3.1	2.7	3.6	3.6	3.1	3.3	2.9	2.8	3.7	3.6	3.4
16	3.8	3.4	2.8	3.6	3.6	3.3	3.0	3.1	3.5	3.8	3.7	3.4
17	3.9	3.2	2.9	3.7	3.6	3.7	3.5	3.2	3.4	3.5	3.2	3.4
18	3.9	3.4	3.1	3.6	3.6	3.3	3.4	3.2	3.5	3.7	3.6	3.4
19	3.8	3.2	3.0	3.3	3.1	3.2	3.1	3.1	3.2	3.6	3.6	3.3
20	3.9	3.5	2.9	3.5	3.2	3.4	3.0	3.1	3.0	3.5	3.4	3.2
21	3.8	3.2	3.0	3.6	3.5	3.1	3.4	3.1	3.1	3.6	3.3	3.2
22	3.9	3.3	2.8	3.5	3.0	3.3	3.1	3.1	2.7	3.6	3.5	3.2
23	3.8	3.4	2.7	3.4	3.2	3.3	3.2	2.9	3.0	3.6	3.6	3.1
24	3.8	3.4	3.0	3.4	3.2	3.5	3.1	3.1	3.3	3.6	3.4	3.1
25	3.9	3.6	3.1	3.8	3.1	3.5	3.3	3.1	3.2	3.7	3.7	3.1
26	3.8	3.6	3.0	3.6	3.4	3.0	3.1	2.8	3.3	3.7	3.8	3.1
27	4.0	3.3	2.8	2.9	2.6	2.7	2.5	2.6	2.7	3.9	3.7	2.8
28	3.6	2.9	2.3	3.3	2.9	2.5	2.4	2.4	3.2	3.6	3.6	2.5

※未提出の科目はない。

【3】初修外国語(35科目)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	3.9	3.6	3.2	3.7	3.2	3.4	3.2	3.4	3.6	3.8	3.7	3.7
2	3.9	3.5	3.3	3.6	3.6	3.6	3.6	3.4	3.5	3.7	3.6	3.7
3	3.9	3.6	3.0	3.6	3.8	3.7	3.8	3.5	3.6	3.8	3.6	3.6
4	3.8	3.5	2.9	3.6	3.7	3.4	3.3	3.5	3.5	3.7	3.5	3.6
5	3.8	3.5	3.1	3.7	3.6	3.7	3.7	3.3	3.5	3.7	3.7	3.6
6	3.9	3.5	3.0	3.6	3.4	3.5	3.5	3.2	3.2	3.5	3.4	3.5
7	3.9	3.5	3.1	3.7	3.5	3.7	3.7	3.3	3.3	3.8	3.7	3.5
8	3.8	3.2	2.9	3.7	3.7	3.6	3.6	3.4	3.2	3.6	3.7	3.5
9	3.9	3.6	3.3	3.6	3.4	3.4	3.3	3.2	3.3	3.2	3.6	3.4
10	3.9	3.3	2.9	3.1	3.5	3.3	3.5	3.6	3.4	3.8	3.6	3.4
11	3.8	3.1	2.7	3.4	3.3	3.4	3.3	3.0	3.2	3.4	3.4	3.4
12	3.9	3.3	3.0	3.6	3.6	3.5	3.5	3.1	3.1	3.5	3.3	3.4
13	3.9	3.4	2.9	3.5	3.5	3.4	3.5	3.2	3.2	3.6	3.4	3.4
14	3.9	3.3	2.9	3.6	3.5	3.2	3.2	3.0	3.3	3.7	3.7	3.4
15	3.8	3.1	2.8	3.6	3.6	3.4	3.5	3.1	3.1	3.6	3.5	3.4
16	3.8	3.2	2.9	3.4	3.4	3.2	3.1	3.1	2.6	3.5	3.3	3.3
17	3.9	3.5	2.8	3.3	3.1	3.1	3.0	3.2	3.4	3.4	3.5	3.3
18	3.9	3.3	3.0	3.2	3.4	3.3	3.3	3.0	3.4	3.5	3.5	3.3
19	3.8	3.6	3.2	3.7	3.5	3.4	3.4	3.1	3.5	3.5	3.4	3.3
20	3.9	3.0	2.7	3.5	3.4	3.3	3.5	3.1	3.1	3.6	3.2	3.3
21	3.9	3.4	2.9	3.6	3.5	3.3	3.3	3.3	3.5	3.6	3.4	3.3
22	3.9	3.4	3.0	3.4	2.8	3.1	3.0	3.1	3.3	3.6	3.6	3.2
23	3.9	3.1	2.5	3.5	3.3	3.4	3.3	2.9	3.3	3.7	3.6	3.2
24	3.8	3.2	2.9	3.2	2.8	3.0	2.6	2.8	3.1	3.6	3.3	3.1
25	3.8	2.9	2.6	3.3	3.2	2.8	2.7	2.8	2.6	3.4	3.4	3.1
26	3.9	3.1	2.9	3.5	3.5	3.1	3.1	2.9	3.0	3.4	2.9	3.1
27	3.7	2.8	2.7	3.4	3.1	3.3	3.1	2.9	3.2	2.6	3.2	3.0
28	3.8	3.0	2.5	3.5	3.3	3.1	3.0	2.8	3.2	3.4	3.3	3.0
29	3.8	3.0	2.3	3.1	2.6	2.6	2.6	2.6	3.0	3.5	3.6	2.6
30	3.8	2.7	2.2	2.8	2.2	2.2	2.1	2.1	2.5	3.4	3.0	2.3

※1科目が未提出。

【4】健康スポーツ科学(25 科目)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	4.0	3.7	3.5	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.5	3.7	3.8	3.8
2	3.9	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.1	3.6	3.5	3.8
3	4.0	3.8	3.6	3.9	3.8	3.8	3.7	3.7	3.1	3.7	3.7	3.8
4	3.9	3.9	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.7	3.2	3.3	3.5	3.8
5	3.8	3.7	3.4	3.7	3.7	3.6	3.5	3.7	3.1	3.7	3.7	3.8
6	3.8	3.8	3.7	3.6	3.6	3.7	3.6	3.7	3.4	3.7	3.7	3.7
7	4.0	3.9	3.6	3.7	3.7	3.4	3.4	3.5	3.0	3.8	3.6	3.7
8	3.9	3.9	3.5	3.6	3.7	3.7	3.6	3.6	3.1	3.7	3.7	3.7
9	3.9	3.7	3.5	3.7	3.9	3.7	3.7	3.7	3.3	3.8	3.7	3.7
10	3.8	3.7	3.6	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.3	3.6	3.7	3.7
11	3.9	3.8	3.7	3.8	3.8	3.8	3.7	3.8	3.6	3.7	3.7	3.7
12	3.9	3.6	3.5	3.7	3.6	3.5	3.3	3.5	2.9	3.3	3.5	3.7
13	3.9	3.7	3.6	3.7	3.8	3.6	3.6	3.4	3.0	3.8	3.6	3.6
14	4.0	3.8	3.6	3.8	3.8	3.7	3.5	3.5	3.3	3.6	3.6	3.6
15	4.0	3.7	3.5	3.6	3.7	3.4	3.5	3.4	3.0	3.5	3.6	3.6
16	3.9	3.6	3.3	3.7	3.6	3.5	3.5	3.6	3.1	3.7	3.4	3.6
17	4.0	3.7	3.2	3.8	3.5	3.6	3.4	3.5	3.0	3.6	3.5	3.6
18	3.9	3.8	3.5	3.6	3.6	3.6	3.5	3.4	3.3	3.5	3.7	3.6
19	3.9	3.7	3.6	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.0	3.5	3.5	3.5
20	3.9	3.6	3.3	3.7	3.6	3.5	3.7	3.4	3.3	3.4	3.4	3.5
21	3.9	3.8	3.6	3.6	3.5	3.4	3.3	3.3	3.1	3.4	3.5	3.5
22	3.9	3.6	3.3	3.7	3.5	3.5	3.4	3.4	3.0	3.6	3.6	3.5
23	3.8	3.6	3.4	3.4	3.3	3.4	3.3	3.3	2.8	3.6	3.4	3.5
24	3.9	3.7	3.3	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	2.8	3.6	3.6	3.4
25	3.8	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.1	3.2	2.8	3.3	3.2	3.4

※未提出の科目はない。

【5】主題教養科目(現代の社会と倫理)(9科目)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	3.9	3.6	3.5	3.6	3.8	3.7	3.8	3.8	3.6	3.7	3.7	3.9
2	3.9	3.8	3.4	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.6	3.6	3.7	3.7
3	3.9	3.4	3.2	3.5	3.2	3.3	3.2	3.2	3.0	3.3	3.4	3.3
4	3.8	3.3	3.2	3.5	3.3	3.3	3.1	3.1	2.8	3.4	3.3	3.2
5	3.8	3.3	3.0	3.5	3.2	3.2	2.9	2.9	2.6	3.2	3.5	3.1
6	3.9	3.1	2.9	3.6	2.8	2.7	2.7	2.7	2.5	3.3	3.4	2.9
7	3.8	3.0	2.9	3.6	2.8	2.9	2.6	2.8	2.3	3.1	3.3	2.9
8	3.9	3.1	2.6	3.2	2.3	1.9	1.9	2.1	2.5	3.5	3.5	2.1

※1科目が未提出。

【6】主題教養科目(人間と文化)(11科目)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	3.9	3.7	3.3	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.0	3.8	3.7	3.7
2	3.8	3.4	3.2	3.5	3.4	3.5	3.4	3.3	2.8	3.4	3.6	3.4
3	3.8	3.6	3.1	3.3	3.1	3.1	3.2	3.4	3.0	2.9	3.4	3.3
4	3.9	3.5	3.3	3.5	3.5	3.5	3.4	3.3	2.9	3.6	3.6	3.3
5	3.8	3.1	2.9	3.2	3.2	3.0	3.0	3.0	2.7	3.5	3.4	3.2
6	3.7	3.2	2.8	3.0	3.0	2.7	2.7	2.6	2.7	3.4	3.2	2.8
7	3.9	3.5	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.7	3.2	3.2	3.6	3.6
8	3.8	3.6	3.2	3.5	3.4	3.4	3.4	3.6	3.3	3.6	3.4	3.6
9	3.9	3.3	3.1	3.6	3.4	3.5	3.3	3.4	3.0	3.3	3.3	3.4
10	3.9	3.6	3.5	3.7	3.7	3.5	3.5	3.5	2.8	3.2	3.5	3.7
11	3.9	3.3	3.3	3.4	3.5	3.2	3.2	3.1	3.1	3.4	3.5	3.2

※未提出の科目はない。

【7】主題教養科目(現代社会の課題)(9科目)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	3.6	3.3	3.1	3.7	3.7	3.7	3.7	3.5	2.8	3.7	3.7	3.6
2	3.8	3.3	2.9	3.6	3.4	3.3	3.2	3.1	2.7	3.6	3.6	3.3
3	3.8	3.1	3.0	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.0	3.5	3.4	3.3
4	3.7	3.2	3.1	3.4	3.4	3.2	3.1	3.0	2.7	2.7	3.2	3.2
5	3.8	3.1	2.9	3.3	3.3	3.0	3.0	3.0	2.8	3.4	3.4	3.1
6	3.7	3.0	2.9	3.2	3.3	2.8	2.8	3.1	2.5	3.5	3.6	3.1
7	3.7	3.2	2.9	3.4	2.9	3.0	2.9	2.8	2.6	3.5	3.5	2.9

※2 科目が未提出。

【8】主題教養科目(自然と生命)(10科目)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	3.9	3.5	3.2	3.7	3.3	3.4	3.3	3.4	3.2	3.7	3.6	3.4
2	3.9	3.5	3.2	3.6	3.3	3.3	3.2	3.1	2.9	3.6	3.7	3.2
3	3.8	3.1	2.9	3.3	3.1	3.2	3.1	3.2	2.7	3.2	3.4	3.2
4	3.8	3.2	2.8	3.6	2.9	3.0	2.8	2.8	2.4	3.3	3.3	3.1
5	3.9	3.3	3.1	3.5	3.1	3.1	3.0	2.9	2.8	3.3	3.4	3.1
6	3.8	3.1	2.8	3.4	3.0	2.9	2.9	2.8	2.6	2.8	3.1	3.0
7	3.8	3.2	3.0	3.4	2.6	2.9	2.7	2.6	2.4	3.4	3.4	2.8
8	3.8	3.2	2.7	3.1	2.4	2.7	2.5	2.5	2.3	2.9	3.2	2.6
9	3.7	2.9	2.1	2.8	1.7	2.2	2.0	2.0	2.5	3.1	3.1	2.1

※1 科目が未提出。

【9】選択教養科目(文化社会系)(10科目)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	3.6	3.7	3.6	3.8	4.0	3.8	3.8	4.0	3.4	3.1	3.7	4.0
2	3.9	3.7	3.5	3.6	3.7	3.5	3.5	3.6	3.6	3.7	3.7	3.7
3	3.8	3.4	3.3	3.6	3.7	3.5	3.4	3.5	3.3	3.7	3.6	3.6
4	3.9	3.5	3.3	3.5	3.5	3.2	3.3	3.4	2.8	3.6	3.5	3.5
5	3.7	3.3	2.7	3.7	3.5	3.4	3.3	3.0	2.4	3.5	3.6	3.5
6	3.8	3.3	3.2	3.8	3.6	3.7	3.7	3.5	2.7	3.5	3.4	3.5
7	3.7	3.3	3.0	3.1	3.3	3.2	3.2	3.3	2.3	3.5	3.5	3.3
8	3.8	3.5	3.3	3.6	3.3	3.3	3.1	3.3	3.6	3.6	3.1	3.3
9	3.8	3.2	3.1	3.7	3.4	3.6	3.1	3.1	2.4	3.3	3.6	3.3
10	3.9	3.2	2.9	3.4	2.8	2.5	2.5	2.7	2.3	3.3	3.1	2.7

※未提出の科目はない。

【10】選択教養科目(科学技術系)(9科目)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	4.0	3.7	3.1	3.8	3.7	3.8	3.5	3.7	3.4	3.5	4.0	4.0
2	3.7	3.8	3.5	3.6	3.6	3.5	3.4	3.4	2.3	3.4	3.5	3.6
3	3.8	3.2	3.3	3.7	3.8	3.6	3.6	3.4	3.0	3.6	3.4	3.5
4	4.0	3.5	3.0	2.8	3.5	3.3	3.3	3.5	3.1	3.0	3.5	3.3
5	3.7	3.1	3.2	3.3	3.1	3.6	3.2	3.2	2.5	3.2	3.5	3.3
6	3.7	3.4	3.0	3.5	3.5	3.5	3.3	3.0	2.8	3.5	3.4	3.2
7	3.9	2.9	2.5	3.5	2.8	3.1	2.8	2.8	1.9	3.6	3.5	3.0
8	3.7	3.2	2.8	3.6	2.9	2.9	3.0	2.7	3.1	3.6	3.5	3.0

※1科目が未提出。

【11】選択教養科目(生命科学系)(3科目)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	3.8	3.2	3.1	3.3	2.8	2.7	2.7	2.7	2.5	3.2	3.2	3.0
2	3.9	3.5	3.2	3.7	3.5	3.5	3.4	3.5	2.7	3.5	3.4	3.6
3	3.9	3.4	2.9	3.5	3.2	3.1	3.1	3.2	2.7	3.6	3.2	3.3

※ 未提出の科目はない。

【12】選択教養科目(複合学際系)(4科目)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	3.7	3.3	3.1	3.8	3.7	3.6	3.5	3.5	2.9	3.6	3.6	3.6
2	3.8	3.4	3.2	3.6	3.5	3.5	3.4	3.6	3.2	3.4	3.5	3.6
3	3.9	3.4	3.3	3.5	4.0	3.7	3.7	3.2	2.6	3.6	3.7	3.5
4	3.9	3.4	3.1	3.5	3.5	3.4	3.2	3.4	2.7	3.7	3.7	3.4

※ 未提出の科目はない。

【13】選択教養科目(生涯学習系)(4科目)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	4.0	3.9	3.8	3.8	3.8	3.7	3.8	3.8	3.6	3.8	3.9	3.9
2	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.5	3.7	3.7	3.9
3	3.9	3.6	3.5	3.7	3.8	3.8	3.8	3.7	3.3	3.5	3.6	3.8
4	3.9	3.2	2.9	3.4	3.4	3.3	3.3	3.1	2.9	3.6	3.5	3.5

※ 未提出の科目はない。

【14】選択教養科目(外国語系)(7科目)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	4.0	3.6	3.4	4.0	3.7	3.7	3.6	3.7	3.5	3.8	3.7	4.0
2	4.0	3.8	3.1	3.8	3.6	3.8	3.6	3.8	4.0	4.0	3.6	4.0
3	3.9	3.9	3.3	3.8	3.9	3.9	4.0	4.0	3.9	4.0	4.0	4.0
4	4.0	3.8	3.4	3.8	3.6	3.8	3.4	3.8	3.8	3.6	4.0	3.8
5	3.9	3.8	3.2	3.8	3.6	3.4	3.5	3.4	3.2	3.8	3.7	3.7
6	3.8	3.3	3.1	3.6	3.4	3.6	3.1	3.3	2.8	3.7	3.5	3.2

※1 科目が未提出。

【15】日本語・日本事情(3科目)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	4.0	4.0	3.2	4.0	4.0	4.0	3.7	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
2	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
3	3.3	3.3	3.3	3.6	4.0	4.0	3.6	3.3	3.6	3.6	3.6	3.3

※未提出の科目はない。

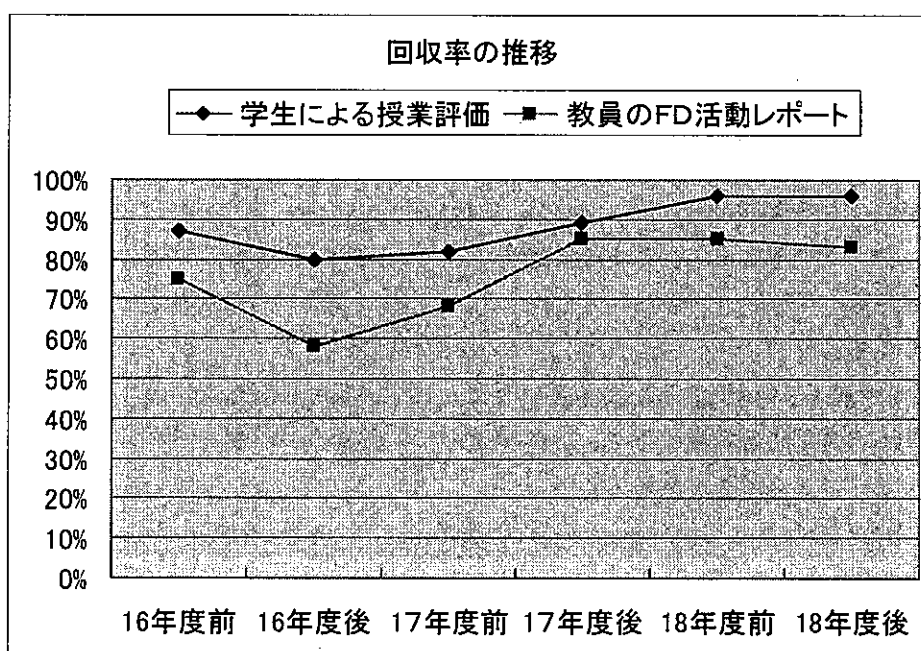
第5章 本調査の今後の課題

平成16年度以降積み重ねてきた授業評価アンケートのデータ分析から観ると、共通教育への学生の評価はこの2年半(特に17年度～18年度前学期までの3学期分)に関しては緩やかながら上昇傾向にあり、成果は確実に上がってきていたと言えるだろう。18年度後学期に関しては、その上昇傾向に多少歯止めが掛かって、ほぼ18年度は横這い状態で終わった形になる。しかし、急激な評価の下降傾向が見られた訳ではなく、その意味では、各教員のFD活動への取り組みの成果は引き続き「堅調」だと言えるのではなかろうか？何事も常に右肩上がりの好調を続ける訳ではなく(常時上昇の場合でも青天井ということはなく、何れは100%の天井に達して頭打ちとなり、その後は横這いか下降しかない訳である)、総論的に言えば、本調査を初めとするFD緒活動が次第に制度として定着してきていることを暗示している、と捉えるのが穏当ではないかと思われる。

今、過去3年間の「学生による授業評価」及び「教員のFD活動レポート」の回収率を表にすると以下の通りである。

	学生による授業評価	教員のFD活動レポート
平成16年度前学期	87%	75%
平成16年度後学期	80%	58%
平成17年度前学期	82%	68%
平成17年度後学期	89%	85%
平成18年度前学期	96%	85%
平成18年度後学期	96%	83%

また、これをグラフで表すと次のようになる。



前学期報告書では、18年度からの新たな取り組みとして「情報処理入門」科目において試行的に一部実施された「WEB入力による授業評価アンケート」の結果を報告し、後学期以降の他科目への拡大実施の可能性について論じた。しかしながら、改善方策等に関してその後委員会で議論を深めた結果、紙による従来の授業評価よりは学生の本音に近い意見を掘り起こすことが出来たものの、担当教員に対するややもすると悪意ある中傷にも似た意見も一部表明されるなど、必ずしも建設的とはいえない面も出来たことから、委員会としては他科目への拡大実施は時期尚早との意見が大勢を占め、この方式を拡大することは見送られることとなった。

又、前学期にはもう一つ「授業評価結果の公開の是非について」、教員にアンケートを求めた結果も報告した。授業評価結果の公開については、当然賛否両方があり、数字的には賛成意見が反対意見よりも多かったものの、賛成と同数程度に「どちらとも言えない」とする意見も多かった。これらの諸意見を踏まえて、前学期報告書では反対意見にも配慮しながら、「研究」機関としてよりも「教育」機関としての大学の在り方の観点から、教育の受け手である個々の学生の希望や意向を無視することなく、受け手が満足する教育（内容）を授けることが、「教育」機関としての大学の本来の大切な使命の一つではないか、ということを描き、併せて授業評価結果の公開[公表]を前向きに検討すべき時期に来ているのではないかと、という問題提起も行った。

その上で、18年度前学期の報告書においては、今後の課題を次の2点に纏めた。

- (1) 授業評価・FD活動レポートの回収率の向上を図る手だての具体化に更に取り組む。
- (2) 自律的な授業・教育方法等改善の意義の再確認を真摯に行い、それに基づいて大学の「教育機関としての在り方」を再確認する。その上で、あるべき「人格教育・人間教育」としての教養教育を全学的に認知されたものとする努力を続ける。

更に、これらを具体的課題に展開して再記しておく、以下の様になる。

(1) 回収率の向上を図る手だての具体化

1. 更なる回収率の向上を目指す為に、具体的な手だてを講じることへの大方の理解と賛同を得て、これを実行に移す。
2. 回収率向上の手だてをこれまでの様な一般的・万人向きなものではなく、「そもそも回収率は100%でなければいけないのか？」という根本的な点も含めて再検討する必要がある。
3. 100%が望ましいとなれば、授業評価等に対して消極的な教員と評価に係わる委員会等との直接対話も実施に移す。その結果として価値観の転換まで迫る要請をせざるを得なくなる可能性も生じてくる。
4. 「段階的な評価結果の公開を目指す」…基調としては、拙速は避けながらも前向きに議論を収斂させてゆく努力を続ける。
5. 「教員のFD活動レポート」に関しては、既に常時高得点を維持している教員に継続的なFD活動報告を求める必要はなく、寧ろ、授業評価結果が常時はかばかしくない

教員に直接FD活動を促すことの方が一層実効性があると思われる。この点を今後真剣に詰めて議論をし、委員会或いは大学として実効性を伴った授業評価及び教員のFD活動評価を実施してゆく方策を編み出すべきである。

6. 広い意味でのインセンティブの導入を行う。今よりは遙かに相応しい待遇を付与することで、専門課程・学科に存在する人材に出動を願ったり、学外の優れた人材を可能な限り活用して教育カリキュラムの充実を図ったり、現在携わっている人員にも一層の授業改善に取り組む意欲を与えるためにも、「呼び水のインセンティブの導入」は前向きに議論すべき事項であり必須の施策である(勿論、インセンティブをどう捉えるかは十分議論を詰めて行かなければならないが・・・)。

(2) 自律的授業改善・教育方法等改善の意義の再確認と教育機関としての在り方

1. 「より良い大学教育は如何にあるべきか」という観点から、調査の必然性と意義を全学で共有すべき時代に入ったとの認識を醸成する必要がある。
2. 一方、法人化以降のトップダウン方式が、余りにも画一的・上意下達式に全てを一元化したり、マニュアル・自動化したりする過度の傾向があることに対して、教養教育は正に人格形成の為の人間教育として、「多様な価値観や考え方を許容する物の観方」を大学教育の中で担保する重要な位置を占めるものではないのか、という問題提起を行ってゆく。洋の東西を問わず「不易」と考えられ大切にされてきた、「人としての価値観」を教え・授けて、高等教育機関としての存在意義を確固たるものとする施策を講じる。

さて、以上の各項目に挙がっている点を、その後の半期を掛けて委員会として、或いは、共通教育部として、どの様に取り扱ってきたかということを本来ここから述べなければならない手順ではあるが、残念ながら実質的には殆ど諸項目についての議論の進展は見られていない。その理由の一つには、年度途中での様々な事項の修正や改善が、全学組織である共通教育部自己点検・評価委員会として迅速にできない面がある、ということが挙げられるであろう。又、本委員会が中期目標・中期計画に基づく認証評価やその他の外部評価等への対応にも相応の時間と精力を割かれ、本来の中心的活動であるべきFD活動そのものに全面的に取り組むことが阻まれている点も指摘しておかなければならないであろう。

学内的には、共通教養教育或いは学士教育そのもの見直しの議論も起こりつつあるが、これも様々な要因が絡んで進捗状況は決して捗々しくはない。

従って、上掲の諸問題点或いは検討事項は後学期もそのまま持ち越しの形にならざるを得なかった。今後も共通教育の枠組み或いは学士課程教育の中での教養教育と専門教育の相互補完的關係等についての改革・改善議論に沿いつつ、自己点検・評価委員会として別途検討を重ねてゆく必要性に些かの変更もない訳だが、その議論が煮詰まって必要に応じて詳しく報告できるまでは、本報告書は、データの積み上げ・積み重ねという点から継続してアンケート結果の取り纏め及び報告を行ってゆくこととする。(了)

共通教育部自己点検・評価委員会委員

(平成18年度)

足立 勝(農学部)

井上 修一(教育文化学部)★

◎甲斐重貴(農学部)

加藤 貴彦(医学部)

川村 修(農学部)★

武方 壮一(大学教育研究企画センター)

玉江 和義(教育文化学部)

西脇 亜也(農学部)

廿日出 勇(工学部)

松尾 雄二(教育文化学部)

○南 太一郎(教育文化学部)★

村岡 嗣文(教育文化学部;共通教育部長)

山本 直之(農学部)★

湯井 敏文(工学部)

(◎は委員長 ○は副委員長)

(★は18年度前学期報告書作成WG)

(平成19年度)

足立 勝(農学部)

井上 修一(教育文化学部)★

◎甲斐重貴(農学部)

川村 修(農学部)

武方 壮一(教育研究・地域連携センター)

玉江 和義(教育文化学部)

中島 暉(医学部)

西森 利数(医学部;共通教育部長)

西脇 亜也(農学部)

廿日出 勇(工学部)

○南 太一郎(教育文化学部)★

山本 直之(農学部)★

湯井 敏文(工学部)★

(◎は委員長 ○は副委員長)

(★は18年度後学期報告書作成WG)

*尚、両年度共、授業評価に係る作業データの処理等には、武方委員に多大な尽力を賜った。特記して謝意を表す。